

(様式第10)

愛大医総第246号

厚生労働大臣 殿

令和 7年 10月 3日

開設者名 国立大学法人愛媛大学

学長 仁科 弘重

愛媛大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和 年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒790-8577 松山市道後樋又10番13号
氏名	国立大学法人愛媛大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

愛媛大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒791-0295 東温市志津川454
電話(089)964-5111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有
内科と組み合わせた診療科名等	
<input type="radio"/> 1呼吸器内科	<input type="radio"/> 2消化器内科
<input type="radio"/> 5神経内科	<input type="radio"/> 6血液内科
<input type="radio"/> 9感染症内科	<input type="radio"/> 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科
診療実績	
・「5神経内科」については、(5)その他に標榜している診療科「4脳神経内科」「5臨床薬理内科」にて医療を提供している。 ・「11リウマチ科」については、(5)その他に標榜している診療科「1膠原病・リウマチ内科」にて医療を提供している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2)外科

外科						有
外科と組み合わせた診療科名						
<input type="radio"/> 1呼吸器外科	<input type="radio"/> 2消化器外科		<input type="radio"/> 3乳腺外科		<input type="radio"/> 4心臓外科	
<input type="radio"/> 5血管外科	<input type="radio"/> 6心臓血管外科		<input type="radio"/> 7内分泌外科		<input type="radio"/> 8小児外科	
診療実績						

- ・「3乳腺外科」「7内分泌外科」については、(5)その他に標榜している診療科「11乳腺・内分泌外科」にて医療を提供している。
- ・「4心臓外科」「5血管外科」については、「6心臓血管外科」にて医療を提供している。

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

<input type="radio"/> 1精神科	<input type="radio"/> 2小児科	<input type="radio"/> 3整形外科	<input type="radio"/> 4脳神経外科
<input type="radio"/> 5皮膚科	<input type="radio"/> 6泌尿器科	<input type="radio"/> 7産婦人科	<input type="radio"/> 8産科
<input type="radio"/> 9婦人科	<input type="radio"/> 10眼科	<input type="radio"/> 11耳鼻咽喉科	<input type="radio"/> 12放射線科
<input type="radio"/> 13放射線診断科	<input type="radio"/> 14放射線治療科	<input type="radio"/> 15麻酔科	<input type="radio"/> 16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4)歯科

歯科				有
歯科と組み合わせた診療科名				
<input type="radio"/> 1小児歯科	<input type="radio"/> 2矯正歯科	<input type="radio"/> 3歯科口腔外科		
歯科の診療体制				
外来業務に関しては、補綴・矯正の専門医を配置しており、病棟業務に関してはオンコール体制にて、入院・手術業務を行つ				

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 膜原病・リウマチ内科	2 高血圧内科	3 糖尿病内科	4 脳神経内科	5 臨床薬理内科
6 総合診療科	7 消化器腫瘍外科	8 食道・胃・大腸外科	9 内視鏡外科	10 肝胆脾・移植外科
11 乳腺・内分泌外科	12 形成外科	13 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	14 病理診断科	15 リハビリテーション科
16 臨床検査科	17	18	19	20
21	22	23	24	25

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40	2	-	-	602	644

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	235	154.5	389.5
歯科医師	7	7.6	14.6
薬剤師	47	0	47
保健師	0	0	0
助産師	18	0	18
看護師	684	17.4	701.4
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	7	0	7
管理栄養士	13	1.5	14.5

職種	員数
看護補助者	40
理学療法士	17
作業療法士	6
視能訓練士	7
義肢装具士	0
臨床工学技士	21
栄養士	0
歯科技工士	2
診療放射線技師	38

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査技師	52	
臨床検査	衛生検査技師	0
その他	0	
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	13	
その他の技術員	25	
事務職員	168	
その他の職員	15	

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	34	眼科専門医	14
外科専門医	47	耳鼻咽喉科専門医	20
精神科専門医	16	放射線科専門医	21
小児科専門医	28	脳神経外科専門医	15
皮膚科専門医	10	整形外科専門医	18
泌尿器科専門医	14	麻酔科専門医	28
産婦人科専門医	16	救急科専門医	7
合計			288

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (杉山 隆) 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

平成27年4月1日に産婦人科の教授に就任後、診療科長として医療安全管理委員会の委員となり、令和3年4月1日に病院長に就任し、病院長に就任後は医療安全管理委員会の委員長を務めている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	477.7 人	13.8 人	491.5 人
1日当たり平均外来患者数	1211 人	73.3 人	1284.4 人
1日当たり平均調剤数	802		
必要医師数	120.27		

必要歯科医師数	5.39	人
必要薬剤師数	17	人
必要(准)看護師数	290	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要				
集中治療室	431 m ²	鉄筋コンクリート	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	22 有 有	心電計 除細動装置 ペースメーカー	有 有 有	
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	290 m ² 台	病床数 台	15	床	
医薬品情報 管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床面積 共用する室名		20	m ²		
化学検査室	392 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動蛍光抗体法分析装置 全自動化学発光免疫測定装置	□		
細菌検査室	266 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	微生物感受性分析装置 リアルタイム濁度測定装置			
病理検査室	175 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	液状化検体細胞診標本作成装置 IHC/ISH自動染色装置			
病理解剖室	360 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	剖検台、局所排気装置			
研究室	199 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	パソコン、プリンタ、顕微鏡			
講義室	734 m ²	鉄筋コンクリート	室数 18 室	収容定員 660 人			
図書室	99 m ²	鉄筋コンクリート	室数 2 室	蔵書数 39,735 冊程度			

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	98.7 %	逆紹介率	81.2 %
算出 根拠	A:紹介患者の数		13,539 人
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数		11,455 人
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数		375 人
	D:初診の患者の数		14,103 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長	選定理由	利害	委員の要件

氏名	所属	(○を付す)	専門性	関係	該当状況
中西 徳彦	愛媛県立中央病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
和田 資篤	弁護士法人SOH		法律に関する識見を有する者	無	1
河野 和博	愛媛県難病等患者団体連絡協議会／愛媛県腎臓病患者連絡協議会		医療を受ける者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
愛媛大学ホームページの情報公開のページ内に、「附属病院における医療安全管理について」という事項を設け、監査委員会規程及び委員会名簿(選定理由を含む)を公表している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注)2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髓性筋萎縮症	4	56	ペーチエット病	68
2	筋萎縮性側索硬化症	20	57	特発性拡張型心筋症	41
3	脊髄性筋萎縮症	10	58	肥大型心筋症	12
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	11	60	再生不良性貧血	19
6	パーキンソン病	160	61	自己免疫性溶血性貧血	9
7	大脳皮質基底核変性症	12	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	28
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	65	原発性免疫不全症候群	8
11	重症筋無力症	96	66	IgA腎症	36
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性囊胞腎	23
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	113	68	黄色韌帯骨化症	15
14	慢性炎症性脱髓性多発神経炎／多巣性運動ニューロパシー	15	69	後縦韌帯骨化症	67
15	封入体筋炎	6	70	広範脊柱管狭窄症	3
16	クロウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壞死症	56
17	多系統萎縮症	16	72	下垂体性ADH分泌異常症	18
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	35	73	下垂体性TSH分泌亢進症	4
19	ライソゾーム病	7	74	下垂体性PRL分泌亢進症	4
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	0
21	ミトコンドリア病	8	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	37	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	26
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	76
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	3	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	55	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	52
30	遠位型ミオパシー	0	85	特発性間質性肺炎	33
31	ベスレムミオパシー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	10
32	自己貪食空胞性ミオパシー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	2
34	神経線維腫症	20	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	27	90	網膜色素変性症	23
36	表皮水疱症	6	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	11	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性胆管炎 旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	39
39	中毒性表皮壊死症	3	94	原発性硬化性胆管炎	14
40	高安動脈炎	26	95	自己免疫性肝炎	32
41	巨細胞性動脈炎	15	96	クローン病	71
42	結節性多発動脈炎	9	97	潰瘍性大腸炎	111
43	顯微鏡的多発血管炎	54	98	好酸球性消化管疾患	3
44	多発血管炎性肉芽腫症	20	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	33	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	1	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	1	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	5	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	197	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	118	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	83	106	クリオピリン関連周期熱症候群	3
52	混合性結合組織病	53	107	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	1
53	シェーグレン症候群	28	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	24	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	11	110	プラウ症候群	0

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパシー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	23
113	筋ジストロフィー	13	163	特発性後天性全身性無汗症	8
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	165	肥厚性皮膚骨膜症	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	2
118	脊髄膜腫	0	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	9
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	2	177	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	1	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウイリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	1
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニ一欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニ一脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウイリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	1
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニ一脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスマッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スマス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	1
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スター・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	1
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	3
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	6
160	先天性魚鱗癖	0	210	単心室症	3

	疾患名	患者数	疾患名	患者数	
211	左心低形成症候群	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1	274	骨形成不全症	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	2	275	タナトフォリック骨異形成症	0
215	ファロー四徴症	36	276	軟骨無形成症	1
216	両大血管右室起始症	3	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
217	エプスタイン病	3	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
218	アルポート症候群	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
220	急速進行性糸球体腎炎	4	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	5
221	抗糸球体基底膜腎炎	2	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
222	一次性ネフローゼ症候群	24	283	後天性赤芽球病	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	0
224	紫斑病性腎炎	1	285	ファンコニ貧血	0
225	先天性腎性尿崩症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	287	エプスタイン症候群	0
227	オスラー病	3	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	4
228	閉塞性細気管支炎	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
230	肺胞低換気症候群	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	0	292	総排泄腔外反症	0
232	カーニー複合	0	293	総排泄腔遺残	0
233	ウォルフラム症候群	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
235	副甲状腺機能低下症	1	296	胆道閉鎖症	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	297	アラジール症候群	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	298	遺伝性脾炎	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	299	囊胞性線維症	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	300	IgG4関連疾患	12
240	フェニルケトン尿症	0	301	黄斑ジストロフィー	0
241	高チロシン血症1型	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
242	高チロシン血症2型	0	303	アッシャー症候群	0
243	高チロシン血症3型	0	304	若年発症型両側性感音難聴	1
244	メープルシロップ尿症	0	305	遲発性内リンパ水腫	1
245	プロピオン酸血症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	59
246	メチルマロン酸血症	1	307	カナバン病	0
247	イソ吉草酸血症	0	308	進行性白質脳症	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	309	進行性ミオクローヌスてんかん	0
249	グルタル酸血症1型	0	310	先天異常症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
251	尿素サイクル異常症	0	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	313	先天性肺静脈狭窄症	1
253	先天性葉酸吸收不全	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
254	ポルフィリン症	0	315	ネイルバテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L-MX1B関連腎症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	316	カルニチン回路異常症	0
256	筋型糖原病	0	317	三頭酵素欠損症	0
257	肝型糖原病	0	318	シトリン欠損症	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシートール(GPI)欠損症	0
260	シトステロール血症	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
261	タンザール病	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
262	原発性高カリモミクロン血症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
263	脳膜黄色腫症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
264	無 β リポタンパク血症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
265	脂肪萎縮症	0	326	大理石骨病	0
266	家族性地中海熱	2	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
267	高IgD症候群	0	328	前眼部形成異常	0
268	中條・西村症候群	0	329	無虹彩症	3
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	0
270	慢性再発性多発性骨髓炎	0	331	特発性多中心性キャッスルマン病	15
271	強直性脊椎炎	10	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
			333	ハッテンソン・ギルフォード症候群	0
			334	脳クレアチン欠乏症候群	0
			335	ネフロン病	0
			336	家族性低 β リポタンパク血症1 (ホモ接合体)	0
			337	ホモシスチン尿症	0
			338	進行性家族性肝内胆汁うつ滞症	0
			339	MECP2重複症候群	0
			340	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	0
			341	TRPV4異常症	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	124
合計患者数(人)	2554

(様式第2)

高度の医療の

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設

施 設 基 準 の 種 類
地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療医療安全対策加算2
歯科外来診療感染対策加算3
特定機能病院入院基本料 一般
特定機能病院入院基本料の注10 に規定する入院栄養管理体制加算
特定機能病院入院基本料 精神
救急医療管理体制加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算1
医師事務作業補助体制加算1
急性期看護補助体制加算
夜間急性期看護補助体制加算
夜間看護管理体制加算
看護補助体制充実加算1
看護職員夜間配置加算
看護補助加算
看護補助体制充実加算1
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算1
無菌治療室管理加算2
放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)
緩和ケア診療加算
精神科身体合併症管理加算
精神科リエンジンチーム加算

摂食障害入院医療管理加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算1
感染対策向上加算1
感染対策向上加算1 指導強化加算
感染対策向上加算1 抗菌薬適正使用体制加算
患者サポート体制充実加算

(様式第2)

高度の医療の

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設

施 設 基 準 の 種 類
歯科治療時医療管理料
ウイルス疾患指導料の注2
外来栄養食事指導料の注2
外来栄養食事指導料の注3
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料ロ
がん患者指導管理料ハ
がん患者指導管理料ニ
外来緩和ケア管理料
移植後患者指導管理料(臓器移植後)
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)

糖尿病透析予防指導管理料
小児運動器疾患指導管理料
婦人科特定疾患治療管理料
一般不妊治療管理料
生殖補助医療管理料1
二次性骨折予防継続管理料1
二次性骨折予防継続管理料3
下肢創傷処置管理料
ニコチン依存症管理料
療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算
外来腫瘍化学療法診療料1
外来腫瘍化学療法診療料の注6に規定する連携充実加算
がん治療連携計画策定料
肝炎インターフェロン治療計画料
ハイリスク妊娠婦連携指導料1
こころの連携指導料(Ⅱ)
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料1
医療機器安全管理料2
医療機器安全管理料(歯科)
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算

在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
遺伝学的検査
染色体検査の注2に規定する基準
骨髄微小残存病変量測定
BRCA1／2遺伝子検査
がんゲノムプロファイリング検査
角膜ジストロフィー遺伝子検査
有床義歯咀嚼機能検査1のイ
有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査
有床義歯咀嚼機能検査2のイ
有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査
抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
精密触覚機能検査
先天性代謝異常症検査
抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(膿液)
検体検査管理加算(Ⅰ)

検体検査管理加算(IV)
国際標準検査管理加算
遺伝カウンセリング加算
遺伝性腫瘍カウンセリング加算
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
胎児心エコー法
ヘッドアップティルト試験
長期継続頭蓋内脳波検査
神経学的検査
補聴器適合検査
全視野精密網膜電図
ロービジョン検査判断料
コンタクトレンズ検査料1
小児食物アレルギー負荷検査
内服・点滴誘発試験
経頸静脈的肝生検
CT透視下気管支鏡検査加算
経気管支凍結生検法
画像診断管理加算4
遠隔画像診断
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)

ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)
CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算
心臓MRI撮影加算
乳房MRI撮影加算
頭部MRI撮影加算
全身MRI撮影加算
肝エラストグラフィ加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算1
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
初期加算 急性期リハビリテーション加算
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
初期加算 急性期リハビリテーション加算
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
初期加算 急性期リハビリテーション加算
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
初期加算 急性期リハビリテーション加算
がん患者リハビリテーション料
リンパ浮腫複合的治療料
歯科口腔リハビリテーション料2

通院・在宅精神療法 児童思春期支援指導加算
認知療法・認知行動療法1
精神科作業療法
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
医療保護入院等診療料
硬膜外自家血注入
エタノールの局所注入(甲状腺)
エタノールの局所注入(副甲状腺)
導入期加算1
移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
ストーマ合併症加算
人工胰臓療法
歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)
手術用顕微鏡加算
歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算
光学印象
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
歯科技工加算1及び2
皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算
自家脂肪注入
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算

骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
後縫靭帶骨化症手術(前方進入によるもの)
椎間板内酵素注入療法
脳腫瘍覚醒下マッピング加算
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
癒着性脊椎くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
脊髓刺激装置植込術及び脊髓刺激装置交換術
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術 (過活動膀胱)
角結膜悪性腫瘍切除術
治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))
角膜移植術(内皮移植加算)
羊膜移植術
緑内障手術(流出路再建術(眼内法))及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)

〇提供の実績

基準等(基本診療料)

施設基準の種類
重症患者初期支援充実加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算
ハイリスク分娩管理加算
後発医薬品使用体制加算1
バイオ後続品使用体制加算
術後疼痛管理チーム加算
病棟薬剤業務実施加算1
薬剤業務向上加算
病棟薬剤業務実施加算2
データ提出加算2
入退院支援加算1
入院時支援加算3
せん妄ハイリスク患者ケア加算
精神疾患診療体制加算
精神科急性期医師配置加算2のイ
地域医療体制確保加算
特定集中治療室管理料4
特定集中治療室管理料4 算定上限日数に関する基準
特定集中治療室管理料4 小児加算
特定集中治療室管理料4 早期離床・リハビリテーション加算
特定集中治療室管理料4 早期栄養介入管理加算
脳卒中ケアユニット入院医療管理料
新生児特定集中治療室管理料1
新生児治療回復室入院医療管理料

一類感染症患者入院医療管理料
小児入院医療管理料2(3-2F)
小児入院医療管理料2(1-6F)
小児入院医療管理料2(1-6F)プレイルーム加算イ
小児入院医療管理料2(1-6F)無菌治療管理加算1
小児入院医療管理料2(1-6F)無菌治療管理加算2

④提供の実績

基準等(特掲診療料)

施設基準の種類
網膜再建術
耳管用補綴材挿入術
経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
人工中耳植込術
植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
人工内耳用材料
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
内喉頭筋内注入術(ポツリヌス毒素によるもの)
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)

上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
乳癌センチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
乳癌センチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法 乳癌センチネルリンパ節生検加算1又は乳癌センチネルリンパ節生検加算2
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除又は肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術
腹腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
内視鏡下筋層切開術
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) 高速回転式経皮経管アレクトミーカテーテルによるもの
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) アテローム切除アブレーション式血管形成術用カテーテルによるもの

胸腔鏡下弁形成術
経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)
胸腔鏡下弁置換術
経皮的僧帽弁クリップ術
不整脈手術左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
経皮的中隔心筋焼灼術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)(小児)
補助人工心臓
小児補助人工心臓
植込型補助人工心臓(非拍動流型)
同種心移植術

経皮的下肢動脈形成術
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
内視鏡的逆流防止粘膜切除術
腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)))
腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)))
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)))
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
腹腔鏡下胆囊悪性腫瘍手術(胆囊床切除を伴うもの)
胆管悪性腫瘍手術(脾頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
移植用部分肝採取術(生体)(腹腔鏡によるもの)
生体部分肝移植術
同種死体肝移植術
腹腔鏡下脾腫瘍摘出術
腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下脾頭部腫瘍切除術
腹腔鏡下脾頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
内視鏡的小腸ポリープ切除術
腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
腹腔鏡下腎孟形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
同種死体腎移植術
生体腎移植術
膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
尿道狭窄グラフト再建術
膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢腫手術(鼠径部切開によるもの)
精巢温存手術
精巢内精子採取術
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下仙骨膣固定術
腹腔鏡下仙骨膣固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下臍式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
胎児胸腔・羊水腔シャント術
胎児輸血術及び臍帶穿刺
医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術 (遺伝性乳癌卵巢癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術 (遺伝性乳癌卵巢癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
輸血管理料 I
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
歯根端切除手術の注3
歯周組織再生誘導手術
広範囲顎骨支持型装置埋入手術
レーザー機器加算
麻酔管理料(I)
麻酔管理料(II)
周術期薬剤管理加算
放射線治療専任加算
外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療
1回線量増加加算

強度変調放射線治療(IMRT)
画像誘導放射線治療(IGRT)
体外照射呼吸性移動対策加算
定位放射線治療
定位放射線治療呼吸性移動対策加算 動体追尾法
定位放射線治療呼吸性移動対策加算 その他
画像誘導密封小線源治療加算
保険医療機関間の連携による病理診断
病理診断管理加算2
デジタル病理画像による病理診断
悪性腫瘍病理組織標本加算
口腔病理診断管理加算1
クラウン・ブリッジ維持管理料
歯科矯正診断料
顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
看護職員待遇改善評価料63
外来・在宅ベースアップ評価料(I)
歯科外来・在宅ベースアップ評価料(I)
入院ベースアップ評価料 75

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度		
割 檢 の 状 況	剖検症例数(例)	剖検率(%)

1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)。

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
骨格筋生物学とケミカルバイオロジーで代謝遺伝子発現機構を解明し、健康増進を目指す	細川 元靖	医学系研究科	1,430,000	(補)委 日本学術振興会
脳の高次遺伝子発現制御機構の分子基盤の解明とその破綻による神経疾患の分子病態解明	武内 章英	医学系研究科	6,760,000	(補)委 日本学術振興会
反復性軽度外傷性脳損傷の初期病変解明	朱 鵬翔	医学系研究科	1,170,000	(補)委 日本学術振興会
ドーパミン受容体に関連させた敗血症関連脳症の病態生理解明と新規治療法の開発	チョードリ ムハマド エマムツセレ	医学系研究科	1,820,000	(補)委 日本学術振興会
サルコペニア治療標的としてのRNA結合タンパク質Acin1の機能解析	青戸 守	医学系研究科	780,000	(補)委 日本学術振興会
アンジオテンシンによる脳血管老化機序の解明と認知症治療への展開	閔 莉娟	医学系研究科	1,560,000	(補)委 日本学術振興会
筋ジストロフィー胎児治療の可能性を探る	金川 基	医学系研究科	2,600,000	(補)委 日本学術振興会
筋の健常性維持におけるAT2型受容体の生理的役割の解明と筋疾患治療への応用	岩波 純	医学系研究科	1,560,000	(補)委 日本学術振興会
骨格筋の可塑性を制御するジストログリカーゼECM情報伝達経路の解明	金川 基	医学系研究科	4,550,000	(補)委 日本学術振興会
SARS-CoV-2感染におけるマスト細胞の関与と重症化機序解明に向けた研究	茂木 正樹	医学系研究科	780,000	(補)委 日本学術振興会
胎生期脂質環境による胎児免疫プログラミングと全身エリテマトーデス発症への影響	劉 爽	医学系研究科	1,430,000	(補)委 日本学術振興会
破骨細胞形成に関わる遺伝子発現調節機構とその異常	北澤 莊平	医学系研究科	8,320,000	(補)委 日本学術振興会
腎臓老化におけるWntシグナル制御の重要性を考える:老年性腎疾患の成因解明に向けて	原口 竜摩	医学系研究科	2,600,000	(補)委 日本学術振興会
リソソームCa2+恒常性維持を介したT細胞老化制御機構の解明	鈴木 淳平	医学系研究科	1,040,000	(補)委 日本学術振興会
T細胞老化の生理学・病態生理学的意義とその分子基盤の解明	山下 政克	医学系研究科	6,370,000	(補)委 日本学術振興会
Bach2 による T 細胞自然免疫応答調節を介した肺恒常性維持機構の解明	桑原 誠	医学系研究科	1,690,000	(補)委 日本学術振興会

中高年の口腔機能低下を予防する要因解明に関する疫学研究:一次予防のエビデンス創出	田中 景子	医学系研究科	1,560,000	(補) 委	日本学術 振興会
ホルマリン固定臓器による急性薬物中毒診断の可能性探索	浅野 水辺	医学系研究科	910,000	(補) 委	日本学術 振興会
免疫腫瘍学分野における次世代ヒト化患者腫瘍組織移植モデルプラットフォームの樹立	竹中 克斗	医学系研究科	6,500,000	(補) 委	日本学術 振興会
費用対効果分析を用いた我が国における心不全至適治療戦略の基盤構築	川上 大志	医学系研究科	1,560,000	(補) 委	日本学術 振興会
心筋細胞のheterogeneityとその特性解明に基づいた心疾患の包括的理解	山口 修	医学系研究科	5,330,000	(補) 委	日本学術 振興会
B細胞活性化因子による肥満の病態制御機構の解明	阿部 雅則	医学系研究科	1,170,000	(補) 委	日本学術 振興会
シングルセル解析を用いた膵がん微小環境における化学療法応答機序の解明	小泉 光仁	医学系研究科	1,430,000	(補) 委	日本学術 振興会
小胞体ストレス応答蛋白であるPERK、eIF2の肝発がん進展への役割	日浅 陽一	医学系研究科	1,560,000	(補) 委	日本学術 振興会
PKR結合蛋白質複合体による新規肝細胞癌制御のメカニズムの解明と治療法の開発	渡辺 崇夫	医学系研究科	1,300,000	(補) 委	日本学術 振興会
細胞老化現象に着目した高齢者の精神神経疾患研究	伊賀 淳一	医学系研究科	1,040,000	(補) 委	日本学術 振興会
3つの集団ベースおよびモデル動物を利用した認知症の一酸化窒素系に注目した解析研究	上野 修一	医学系研究科	1,430,000	(補) 委	日本学術 振興会
乳児白血病の発症プロセスの解明と早期診断・発症予防の試み	江口 真理子	医学系研究科	1,820,000	(補) 委	日本学術 振興会
Invasion nicheの酸素環境制御による腫瘍幹細胞破綻メカニズムの解明	渡邊 英昭	医学系研究科	780,000	(補) 委	日本学術 振興会
老化に伴う脳腫瘍悪性化の脳内分子メカニズムの解明と新規治療戦略	山下 大介	医学系研究科	650,000	(補) 委	日本学術 振興会
悪性グリオーマに対する腫瘍特異的5-ALA併用超音波力学療法—既存薬との相乗効果	末廣 諭	医学系研究科	1,950,000	(補) 委	日本学術 振興会
無菌性膿疱形成メカニズムにおけるS1P受容体を介した脂質メディエーターの役割	八束 和樹	医学系研究科	1,560,000	(補) 委	日本学術 振興会
非平衡大気圧プラズマを用いた尋常性乾癬に対する新規治療法の開発	白石 研	医学系研究科	780,000	(補) 委	日本学術 振興会
非平衡大気圧プラズマを用いた皮弁虚血再灌流障害の新規治療法の開発	戸澤 麻美	医学系研究科	1,430,000	(補) 委	日本学術 振興会

非平衡大気圧プラズマを用いた還元型HMGB1による新しい創傷治療薬の開発	森 秀樹	医学系研究科	4,030,000	(補) 委	日本学術振興会
前立腺癌骨転移の分子メカニズム解明と革新的治療法開発への基盤的研究	雑賀 隆史	医学系研究科	1,820,000	(補) 委	日本学術振興会
転写因子ZFP521を応用した角膜透明治癒に向けた治療戦略の確立	白石 敦	医学系研究科	1,040,000	(補) 委	日本学術振興会
顔面神経再生治療を目的とした鼓室内投与法における神経保護効果の検討	山田 啓之	医学系研究科	2,600,000	(補) 委	日本学術振興会
3DVR技術を活用した体験型手術教育用教材の開発	三谷 壮平	医学系研究科	6,630,000	(補) 委	日本学術振興会
心筋テリトリー・マップを活用した新たな心筋血流評価法の開発と応用	城戸 輝仁	医学系研究科	910,000	(補) 委	日本学術振興会
マイクログリアに発現するドパミンD1受容体を介した新規せん妄治療戦略の開発	西原 佑	医学系研究科	1,430,000	(補) 委	日本学術振興会
レジスタンスを標的としたプロモーターSNP・白血球特異的遺伝子発現相乗効果の解明	川村 良一	医学系研究科	1,300,000	(補) 委	日本学術振興会
SNP配列特異的エンハンサーRNAを統合したレジスタンス遺伝子発現調節機構の解明	大澤 春彦	医学系研究科	1,560,000	(補) 委	日本学術振興会
メタボローム解析による一般住民の血中老化バイオマーカーの探索と予防医学への応用	高田 康徳	医学系研究科	1,690,000	(補) 委	日本学術振興会
原発性骨内癌における発生母細胞の同定と悪性度評価	内田 大亮	医学系研究科	1,690,000	(補) 委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌新規腫瘍マーカーCXCL13の発現機能解析と臨床応用	栗林 伸行	医学系研究科	1,950,000	(補) 委	日本学術振興会
敗血症モデルマウスを用いた骨格筋萎縮機序解明と急性期栄養介入法の探索	佐藤 格夫	医学系研究科	1,300,000	(補) 委	日本学術振興会
サルコペニア・動脈硬化・認知機能低下の新規治療標的としてのAGEsの探索	越智 雅之	医学系研究科	1,040,000	(補) 委	日本学術振興会
アルツハイマー病のインスリンシグナリング標的治療:モデルマウスにおける解析	大八木 保政	医学系研究科	1,560,000	(補) 委	日本学術振興会
有害事象報告と医療情報を国際的に統合した効率的なDR候補薬検出システムの試み	木村 映善	医学系研究科	11,830,000	(補) 委	日本学術振興会
左房ストレインを用いた新たなHFpEFリスク層別化の構築	井上 勝次	医学系研究科	780,000	(補) 委	日本学術振興会
腫瘍浸潤リンパ球の動態を考慮した食道癌新規術前療法の開発	押切 太郎	医学系研究科	520,000	(補) 委	日本学術振興会

胆管癌のmolecular subtype分類の構築	榎田 祐三	医学系研究科	1,032,810	(補) 委	日本学術 振興会
International translational research for clinical applications of novel biodegradable ASD occluder device using large animals	黒部 裕嗣	医学系研究科	4,680,000	(補) 委	日本学術 振興会
単一細胞レベルでの大動脈弁石灰化機構の統合的理解	坂上 優久	医学系研究科	4,160,000	(補) 委	日本学術 振興会
心臓血管外科治療で用いる生体材料の石灰化メカニズムの包括的理解	泉谷 裕則	医学系研究科	4,680,000	(補) 委	日本学術 振興会
新規脂質染色と組織透明化を組み合わせた断端がんの3次元病理診断法の開発	川上 良介	医学系研究科	1,040,000	(補) 委	日本学術 振興会
BMPによる新規骨代謝制御機構の解明と革新的骨粗鬆症治療薬探索システムの構築	今村 健志	医学系研究科	6,500,000	(補) 委	日本学術 振興会
T細胞の代謝リプログラミング遮断によるアレルギー性皮膚炎病態制御の試み	ミヤケ 深雪	医学系研究科	1,300,000	(補) 委	日本学術 振興会
EVT由来exosome内HMG蛋白の妊娠高血圧腎症における組織障害への影響	松原 圭一	医学系研究科	1,040,000	(補) 委	日本学術 振興会
CA I ノックアウト炎症性腸疾患モデルを用いたCA I免疫療法の治療効果	丹下 和洋	医学系研究科	650,000	(補) 委	日本学術 振興会
アンチエイジングドックにおける軽度認知機能障害の画像診断の開発	伊賀瀬 圭二	医学系研究科	1,300,000	(補) 委	日本学術 振興会
川崎病後冠動脈瘤由来の血栓症に対するXa阻害薬を用いた新たな治療戦略の創出	稲葉 慎二	医学系研究科	910,000	(補) 委	日本学術 振興会
プレスキャン超音波画像と複合現実を用いた安全な大腿静脈穿刺方法の開発	檜垣 彰典	医学系研究科	910,000	(補) 委	日本学術 振興会
頬粘膜を用いた自閉スペクトラム症の生物学的指標の検証および早期診断システムの開発	堀内 史枝	医学系研究科	520,000	(補) 委	日本学術 振興会
小学生におけるインターネット依存予防介入プログラムの効果検証と支援モデル構築	河邊 憲太郎	医学系研究科	1,040,000	(補) 委	日本学術 振興会
リフレクティブサイクルを活用した看護倫理教育の継続性の検証	相原 ひろみ	医学系研究科	260,000	(補) 委	日本学術 振興会
誤嚥性肺炎を見据えた在宅高齢者のオーラルフレイルの予防的看護介入プログラムの開発	藤村 一美	医学系研究科	520,000	(補) 委	日本学術 振興会
シェーグレン症候群患者の睡眠の質と疲労改善を目指した遠隔支援プログラムの開発	宮内 清子	医学系研究科	780,000	(補) 委	日本学術 振興会
コロナ禍で新規発症した1型糖尿病患児と家族への糖尿病初期教育支援プログラムの開発	薬師神 裕子	医学系研究科	1,690,000	(補) 委	日本学術 振興会

外来がん薬物療法を受ける独居の成人期大腸がん患者の療養生活を支える看護の探索	竹井 友理	医学系研究科	780,000	補委	日本学術振興会
意味性認知症の人と家族における発症初期からの介入支援モデルの開発	柴 珠実	医学系研究科	650,000	補委	日本学術振興会
介護医療院の生活の観点を取り入れた快適な排便ケア実践のための教育プログラムの開発	小岡 亜希子	医学系研究科	2,080,000	補委	日本学術振興会
多職種統合チームによる在宅緩和ケア実践評価尺度の開発とその実用性の検証	吉田 美由紀	医学系研究科	910,000	補委	日本学術振興会
児童虐待予防に向けた行政の組織横断的な家族支援プログラムの開発	西嶋 真理子	医学系研究科	910,000	補委	日本学術振興会
加齢性難聴高齢者のフレイル予防に向けた前向きコホート調査	達川 まどか	医学系研究科	910,000	補委	日本学術振興会
高齢者排泄ケアの継続性を可能にする施設間連携システム構築に関する研究	陶山 啓子	医学系研究科	780,000	補委	日本学術振興会
血栓形成における新たな機構解明のためのGPR25遺伝子解析	山之内 純	医学部附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
難治性血管炎の新たな寛解維持・腎予後予測マーカーおよび分子標的治療の臨床応用	石崎 淳	医学部附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
新たなT細胞活性化シグナルに基づく新規キメラ抗原受容体の開発研究	越智 俊元	医学部附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
二重特異性抗体を用いた局所免疫制御による新規GVHD治療法の開発研究	小西 達矢	医学部附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会
横紋筋融解症に伴う急性腎障害に対するメガリンASOの有用性の検討	莢田 昌敬	医学部附属病院	910,000	補委	日本学術振興会
シングルセルオミックス解析で同定した新規心不全標的分子の機能解明	中尾 恭久	医学部附属病院	780,000	補委	日本学術振興会
流体力学の理論を用いた冠動脈、新規置換大動脈弁の新たな評価方法の開発と検討	清家 史靖	医学部附属病院	1,950,000	補委	日本学術振興会
高脂肪食摂取により誘導される細胞外ATPを介した脂肪肝炎、肝癌発症機序の解明	三宅 映己	医学部附属病院	1,170,000	補委	日本学術振興会
PERKを介した小胞体ストレスによる肝星細胞の活性化と肝細胞癌進展機序の解明	今井 祐輔	医学部附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会
NASH肝癌におけるB細胞活性化因子の役割と腫瘍免疫への影響	中村 由子	医学部附属病院	2,730,000	補委	日本学術振興会
AIを活用した超音波脾臓微細血管イメージングによる門脈圧亢進症診断法の開発	廣岡 昌史	医学部附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会

間歇型一酸化炭素中毒の病態解明及び治療の究明	越智 紳一郎	医学部附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
自閉症スペクトラム障害におけるExosome-miRNAの変化、及び病的意義	吉野 祐太	医学部附属病院	650,000	補委	日本学術振興会
ガスリー濾紙血を用いた小児白血病の早期診断法の開発	石前 峰斎	医学部附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
ジストロフィン異常症における腎機能の推移と腎機能障害合併時の誘因に関する検討	元木 崇裕	医学部附属病院	650,000	補委	日本学術振興会
低酸素微小環境の制御による膠芽腫幹細胞の浸潤・増殖の抑制に基づいた治療法の確立	井上 明宏	医学部附属病院	1,716,000	補委	日本学術振興会
酸素環境制御に基づくInvasion niche由来膠芽腫幹細胞破綻療法の確立	重川 誠二	医学部附属病院	130,000	補委	日本学術振興会
MRSによるInvasion nicheを標的とした膠芽腫幹細胞の機能解析と破綻環境の探索	西川 真弘	医学部附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
ミクログリア除去ラットを用いた脳梗塞の病態解明	松本 調	医学部附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
エピゲノムを介した骨棘形成と変形性膝関節症発症メカニズムの解明	忽那 辰彦	医学部附属病院	2,080,000	補委	日本学術振興会
人工膝関節全置換術における術前キネマティクスを考慮した新たな手術手技の実証	木下 智文	医学部附属病院	1,040,000	補委	日本学術振興会
Senescence-like stateの創傷治癒促進機序解明と新規治療薬開発	武藤 潤	医学部附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
シングルセル解析による腫瘍微小環境を介した前立腺神経内分泌腫瘍発生機序の解明	渡辺 隆太	医学部附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
腎癌関連血管内皮細胞におけるPSMAの発現制御機構及び、その分子機能の解明	菊川 忠彦	医学部附属病院	1,170,000	補委	日本学術振興会
シングルセル解析による前立腺癌の新規ドライバー遺伝子同定に関する国際共同研究	菊川 忠彦	医学部附属病院	7,410,000	補委	日本学術振興会
ビッグデータ解析を用いた転移性膀胱癌に対する新規治療標的分子の探索	新井 欧介	医学部附属病院	2,210,000	補委	日本学術振興会
前立腺癌スフェロイドのシングルセル解析による導管内浸潤前立腺癌の病態解明	三浦 徳宣	医学部附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会
数値流体計算を用いた腎孟内圧力変化の解析と腎孟内圧が腎機能へ与える影響	西村 謙一	医学部附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会
VR/MR技術を利用した眼窩部手術手技トレーニング	三谷 亜里沙	医学部附属病院	1,040,000	補委	日本学術振興会

多角的評価による嚙下障害の病態診断法および治療アルゴリズムの確立とその臨床応用	田中 加緒里	医学部附属病院	1,430,000	(補) 委	日本学術 振興会
一過性内耳虚血後のCochlear synaptopathyの検討	麻生 沙和	医学部附属病院	1,040,000	(補) 委	日本学術 振興会
頭頸部扁平上皮癌におけるCLICsの機能解明と新規抗悪性腫瘍薬への展開	細川 裕貴	医学部附属病院	1,950,000	(補) 委	日本学術 振興会
Mixed reality技術を用いた咽頭癌に対する経口的手術の支援システム開発	佐藤 恵里子	医学部附属病院	520,000	(補) 委	日本学術 振興会
ストレスめまいモデルマウスでのCTを用いた耳石形態変化と抗酸化物質の有用性の検討	西原 江里子	医学部附属病院	2,080,000	(補) 委	日本学術 振興会
人工知能を用いたSynthetic MRIでの乳癌病変の新たな良悪性判定法の開発	松田 恵	医学部附属病院	390,000	(補) 委	日本学術 振興会
Image-based navigationを用いた3D遅延造影撮像法の開発	中村 壮志	医学部附属病院	650,000	(補) 委	日本学術 振興会
甲状腺癌放射性ヨード内用療法における放射線宿醉のリスク因子の解明	高田 紀子	医学部附属病院	910,000	(補) 委	日本学術 振興会
CTストレイン解析を応用した新たな左房機能定量評価法の開発	田邊 裕貴	医学部附属病院	910,000	(補) 委	日本学術 振興会
人工知能を用いた低侵襲・低被ばくECV評価法の開発	吉田 和樹	医学部附属病院	910,000	(補) 委	日本学術 振興会
交感神経活性化が引き起こすB細胞減少による術後感染メカニズムの解明	阿部 尚紀	医学部附属病院	1,430,000	(補) 委	日本学術 振興会
眼症状を伴う遺伝性神経筋疾患の新規疾患単位の確立	三浦 史郎	医学部附属病院	910,000	(補) 委	日本学術 振興会
SNPを標的とした早期インスリン抵抗性・動脈硬化症の個別化先制医療の確立	高門 美沙季	医学部附属病院	780,000	(補) 委	日本学術 振興会
レジスタンSNPを標的としたサルコペニア肥満進展の分子メカニズムの統合的解明	池田 陽介	医学部附属病院	1,560,000	(補) 委	日本学術 振興会
レジスタンSNP・喫煙の相乗効果メカニズムの解明と2型糖尿病高精度予防法の確立	羽立 登志美	医学部附属病院	1,560,000	(補) 委	日本学術 振興会
患者予後と医療経済を改善する超小型非侵襲的臓器血流測定装置新規開発への挑戦	吉田 素平	医学部附属病院	1,820,000	(補) 委	日本学術 振興会
GVHD誘導マウスでのサイトカイン阻害による胆道閉鎖症の炎症標的型治療法の開発	榎屋 隆太	医学部附属病院	1,683,615	(補) 委	日本学術 振興会
アロマターゼ阻害薬による乳癌治療関連骨量減少症のメカニズム解明	亀井 義明	医学部附属病院	1,170,000	(補) 委	日本学術 振興会

肺癌微小環境を構築する間質細胞を標的とした新たな肺癌治療戦略	桐山 洋介	医学部附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
Neutrophil extracellular trapsを介した心膜癒着メカニズムの解明とその制御法の開発	薦田 宗則	医学部附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
転写制御因子を標的とした新規肺虚血再灌流障害制御法の開発と臨床応用	大谷 真二	医学部附属病院	1,690,000	補委	日本学術振興会
胸膜癒着の機序解明とその制御法の開発	藻利 優	医学部附属病院	1,820,000	補委	日本学術振興会
動物モデルを用いた大動脈弁狭窄症の発症から重症化までの包括的理	坂本 裕司	医学部附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
細胞内mRNA代謝に着目した肺癌細胞免疫回避機構の解明	坂尾 伸彦	医学部附属病院	2,080,000	補委	日本学術振興会
動静脈奇形におけるAutophagyのメカニズム解明と新規治療薬開発を目指して	泉本 真美子	医学部附属病院	1,950,000	補委	日本学術振興会
非平衡大気圧プラズマとHMGB1による虚血性遷延性潰瘍に対する新規治療薬の開発	村上 達郎	医学部附属病院	1,560,000	補委	日本学術振興会
IGF-1によるT細胞機能調節を介した集中治療患者の長期予後改善	小西 周	医学部附属病院	1,950,000	補委	日本学術振興会
老人性骨粗鬆症の病態解析:DNAメチル化による破骨細胞分化の制御	北澤 理子	医学部附属病院	650,000	補委	日本学術振興会
睡眠改善の促進妨害要因の解析と集団特性に応じた新たな睡眠教育プログラムの構築	岡 靖哲	医学部附属病院	4,680,000	補委	日本学術振興会
ドライアイ結膜上皮モデルに対するPAX6による再教育の試み	竹澤 由起	医学部附属病院	1,950,000	補委	日本学術振興会
脂腺細胞の分泌膜小胞セボゾームの生成・分泌機構と脂溶性分子キャリアとしての利用	永井 彩子	医学部附属病院	1,690,000	補委	日本学術振興会
がん微小環境が造り出す浸潤転移性がん細胞発生メカニズムの解明	塩川 大介	医学部附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
老化CD8 T細胞サブセットの同定と生体防御における役割の解明	松岡 祐子	医学部附属病院	1,950,000	補委	日本学術振興会
プロテオフォームの包括的解析を可能にする高深度トップダウンプロテオミクス法の開発	武森 信暉	学術支援センター	7,540,000	補委	日本学術振興会
可溶性ポリアクリラミドゲル電気泳動を活用したミドルダウンプロテオミクス法の開発	武森 信暉	学術支援センター	1,560,000	補委	日本学術振興会
エストロゲンを基軸とした臓器連関による関節リウマチ病態の性差構築機構の解明	佐伯 法学	学術支援センター	5,200,000	補委	日本学術振興会

福山型筋ジストロフィーの新規モデルマウスを用いた病態解明と遺伝子治療の検討	深澤 賢宏	学術支援センター	1,690,000	(補) 委	日本学術振興会
酢酸代謝によるエピジェネティックな遺伝子発現調節と生活習慣病との関連の解析	藤野 貴広	学術支援センター	1,430,000	(補) 委	日本学術振興会
赤血球期マラリア原虫における滑走運動の分子機序の解明	矢幡 一英	プロテオサイエンスセンター	5,460,000	(補) 委	日本学術振興会
マラリア原虫雄性生殖母体の分泌小胞に局在する新規分子の網羅的機能解析	橋 真由美	プロテオサイエンスセンター	1,560,000	(補) 委	日本学術振興会
疾患特異的タンパク質の分解誘導システムの開発・応用	東山 繁樹	プロテオサイエンスセンター	7,020,000	(補) 委	日本学術振興会
CRL3依存性プロテオスタシスを基盤とした髓芽腫新生血管の特性解析	田手 壮太	プロテオサイエンスセンター	1,430,000	(補) 委	日本学術振興会
SLFN11の分子メカニズムから解き明かすDNA障害型抗がん剤の真の作用機序	村井 純子	プロテオサイエンスセンター	6,370,000	(補) 委	日本学術振興会
受容体型チロシンキナーゼHERの新規活性抑制機構に基づく創薬とがん治療応用	東山 繁樹	プロテオサイエンスセンター	6,760,000	(補) 委	日本学術振興会
無細胞タンパク合成技術を駆使した抗GPCR抗体作製による難治性がん治療法開発	今井 祐記	プロテオサイエンスセンター	3,250,000	(補) 委	日本学術振興会
エストロゲンを基軸にしたサルコペニア・骨粗鬆症併発における筋骨連関メカニズム解明	今井 祐記	プロテオサイエンスセンター	4,550,000	(補) 委	日本学術振興会
エストロゲンによる骨髄間葉系間質細胞の分化制御機構の解明	池戸 葵	プロテオサイエンスセンター	1,690,000	(補) 委	日本学術振興会
筋萎縮予防を目指した骨格筋肥大抑制作用を有する新規因子Mybphの機能解明	酒井 大史	プロテオサイエンスセンター	1,690,000	(補) 委	日本学術振興会
エピゲノムを介した軟骨細胞内エネルギー代謝変化を標的とした変形性関節症治療法探索	柳原 裕太	プロテオサイエンスセンター	1,690,000	(補) 委	日本学術振興会
自家移植を目指した機能性エクリン汗腺を含有する三次元培養表皮の開発	亀田 健治	プロテオサイエンスセンター	910,000	(補) 委	日本学術振興会
インフラマソーム活性化の心不全への寄与の病理学的解明	倉田 美恵	プロテオサイエンスセンター	1,170,000	(補) 委	日本学術振興会
包括的疾患インタラクターとモデルマウスによる自己炎症疾患の多様性と周期性の解明	増本 純也	プロテオサイエンスセンター	5,200,000	(補) 委	日本学術振興会
初期発生制御分子群の相互作用マップの創出～発育不全病態の包括的理解～	中村 貴紀	プロテオサイエンスセンター	2,340,000	(補) 委	日本学術振興会
非翻訳領域から発現するタンパク質による自己炎症疾患の解明	増本 純也	プロテオサイエンスセンター	3,640,000	(補) 委	日本学術振興会

小児慢性特定疾病児童等の自立支援に資する研究	檜垣 高史	医学系研究科	12,000,300	(補) 委	厚生労働省
ブロック拠点病院のない四国地域の中核拠点病院の機能評価と介護療養体制整備	末盛 浩一郎	医学系研究科	11,700,000	(補) 委	厚生労働省
学童・思春期のプレコンセプションケアを促進するデジタルツールの研究開発	檜垣 高史	医学系研究科	12,606,542	補 (委)	日本医療研究開発機構
超磁歪素子を用いた高齢者向け骨固定式補聴器に関する研究開発	羽藤 直人	医学系研究科	30,246,190	補 (委)	日本医療研究開発機構
福山型筋ジストロフィーを代表とするリビトールリン酸不全型筋ジストロフィーに対する基質補充療法の開発	金川 基	医学系研究科	19,500,000	補 (委)	日本医療研究開発機構
HBs抗原の消失を目指した免疫治療の開発と免疫機序の解析	日浅 陽一	医学系研究科	27,300,000	補 (委)	日本医療研究開発機構

計 166 件

国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請する。
 (注) 1 請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kubota H, Demizu Y, Iwashita K, et al	放射線部	Definitive particle therapy using protons or carbon ions for dedifferentiated liposarcoma.	Clin Transl Radiat Oncol. 2024 Sep 22 ; 49:100864. (オンライン)	Original Article
2	Nakata Y, Takasaki Y, Nandate H, et al	集中治療部	Pediatric Neurogenic Pulmonary Edema After Brain Tumor Removal Complicated with Severe Myocardial Injury: A Case Report.	Am J Case Rep. 2024 May 7 ; 25:e943645. (オンライン)	Case Report
3	Yamamoto Y, Furukawa S, Yoshida O, et al	光学医療診療部	Association between allergic diseases and mucosal healing in ulcerative colitis.	Sci Rep. 2025 Jan 8 ; 15(1):1272. (オンライン)	Original Article
4	Yamamoto Y, Furukawa S, Miyake T, et al	光学医療診療部	Multimorbidity of Allergic Diseases Is Associated With Functional Gastrointestinal Disorders in a Young Japanese Population.	J Neurogastroenterol Motil. 2024 Apr 30 ; 30(2):229–235.	Original Article
5	Tomida H, Kitahata S, Tsubouchi E, et al	光学医療診療部	Esophageal Implantation Metastasis of Gastric Cancer During Specimen Retrieval After Endoscopic Submucosal Dissection.	Am J Gastroenterol. 2025 Mar 1 ; 120(3):506.	Original Article
6	Tomida H, Tange K, Ikeda Y, et al	光学医療診療部	Antireflux mucosectomy for refractory gastroesophageal reflux disease following peroral endoscopic myotomy.	Clin Endosc. 2025 Mar 13.	Original Article
7	Tomida H, Ikeda Y, Hiasa Y	光学医療診療部	Submucosal marking peroral endoscopic myotomy: Novel method of peroral endoscopic myotomy.	Dig Endosc. 2025 Mar 21.	Original Article
8	Yamashita N, Tanaka K, Miyake Y	薬剤部	Association between maternal anemia during pregnancy and risk of eczema in early childhood: A cohort study in Japan.	Allergol Immunopathol (Madr). 2025 Jan 1 ; 53(1):106–111. (オンライン)	Original Article
9	Kurokawa Y, Watanabe S, Yano T, et al	薬剤部	Valproic acid alleviates total-body irradiation-induced small intestinal mucositis in mice.	Int J Radiat Biol. 2024 ; 100(12):1642–1649.	Original Article
10	Yano T, Watanabe S, Kurokawa Y, et al	薬剤部	Pharmacological Investigation of Hypoalbuminemia on the Prolonged and Potentiated Action of Midazolam in Rats.	Biol Pharm Bull. 2024 ; 47(4):785–790.	Original Article
11	Taira M, Kawakami H, Asagi Y, et al	総合診療サポートセンター	Retrieval of a dislodged leadless pacemaker: An example of the double-snare technique.	J Arrhythm. 2025 Jan 7 ; 41(1):e13210. (オンライン)	Original Article
12	Tanaka K, Utsunomiya H, Kato H, et al	先端医療創生センター	Association Between Tongue Pressure and Prevalence of Mild Cognitive Impairment in Japan.	Int J Geriatr Psychiatry. 2024 Sep ; 39(9):e6144.	Original Article
13	Miyake Y, Tanaka K, Okubo H, et al	先端医療創生センター	Maternal fat intake in pregnancy and risk of depressive symptoms in Japanese adolescents: the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study.	Int J Food Sci Nutr. 2024 Sep ; 75(6):562–570.	Original Article
14	Hiraoka D, Ishizaki J, Yamanouchi J, et al	造血細胞移植センター	Antiplatelet effects of hydroxychloroquine in patients with systemic lupus erythematosus evaluated by the total thrombus-formation analysis	Lupus Sci Med. 2024 Jul 8 ; 11(2):e001223. (オンライン)	Original Article
15	Ochi T, Konishi T, Takenaka K	造血細胞移植センター	Bispecific antibodies for multiple myeloma: past, present and future.	Int J Hematol. 2024 Jul ; 120(1):23–33.	Original Article

16	Konishi T, Matsuda K, Itonaga H, et al	造血細胞移植センター	Impact of Early Cytomegalovirus Reactivation After Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation on Relapse in Patients With	Transplant Cell Ther. 2024 Jul ; 30(7):685.e1–685.e12.	Original Article
17	Hiasa Y, Higaki A, Kamei Y, et al	第二内科	Impact of Aromatase Inhibitors Treatment Duration on Coronary Artery Calcification in Postoperative Patients With Breast Cancer.	Can J Cardiol. 2024 Nov ; 40(11):2224–2230.	Original Article
18	Miyoshi T, Nishimura T, Hiasa Y, et al	第二内科	Mobile Thrombus Observed Around an Impella Device.	Cureus. 2024 Sep 28 ; 16(9):e70399. (オンライン)	Case Report
19	Miyoshi T, Shinozuka F, Honda T, et al	第二内科	Advancements in Cardiovascular Imaging: Substituting Magnetic Resonance Imaging for Contrast-Enhanced Computed Tomography in the Assessment of Patent	Cureus. 2024 Oct 23 ; 16(10):e72231. (オンライン)	Case Report
20	Honda R, Akazawa Y, Inoue K, et al	第二内科	A case report: pitfalls in antibacterial therapy with rifampicin for mechanical valve endocarditis—the king of drug interactions.	Eur Heart J Case Rep. 2024 Sep 23 ; 8(10):ytae525. (オンライン)	Case Report
21	Fujisawa T, Kawakami H, Tamaki S, et al	第二内科	Excessive supraventricular ectopic activity is a simple cutoff for predicting late recurrence of atrial fibrillation after ablation.	Heart Vessels. 2024 Dec 15.	Original Article
22	Tamaki S, Inoue K, Kawakami H, et al	第二内科	Remote dielectric sensing predicts elevated left atrial pressure in patients with atrial fibrillation.	Int J Cardiol Heart Vasc. 2024 Jul 5 ; 53:101459. (オンライン)	Original Article
23	Konishi R, Higaki A, Miyoshi T, et al	第二内科	Severe restenosis after stentless treatment with coronary intravascular lithotripsy for calcified nodule lesions: a serial observation with IVUS.	Oxf Med Case Reports. 2024 Dec 28 ; 2024(12):omae156. (オンライン)	Case Report
24	Funamizu N, Mori S, Sakamoto A, et al	第三内科	C-Reactive Protein-to-Albumin Ratio as a Predictive Indicator for Evaluating Tolerability in S-1 Adjuvant Chemotherapy after Curative Surgery for	Cancers (Basel). 2024 Oct 1 ; 16(19):3372. (オンライン)	Original Article
25	Ikeda Y, Kawamura R, Tabara Y, et al	糖尿病内科・臨床検査医学	Genetic variation in the RETN promoter, accompanied by latent sarcopenic obesity, led to insulin resistance in a Japanese cohort: the Toon Genome	Diabetologia. 2025 Apr ; 68(4):854–865.	Original Article
26	Higashioka M, Sakata S, Oishi E, et al	糖尿病内科・臨床検査医学	Transition of Metabolic Health Status and the Risk of Cardiovascular Diseases in a Japanese Population: the Hisayama Study.	J Atheroscler Thromb. 2025 Feb 4.	Original Article
27	Nomoto M, Tsuboi Y, Kashihara K, et al	臨床薬理神経内科	Prescription trends in Japanese advanced Parkinson's disease patients with non-motor symptoms: J-FIRST.	PLoS One. 2024 Oct 23 ; 19(10):e0309297. (オンライン)	Original Article
28	Miyaue N, Yamanishi Y, Ito Y, et al	臨床薬理神経内科	CSF Neopterin Levels Are Elevated in Various Neurological Diseases and Aging.	J Clin Med. 2024 Aug 3 ; 13(15):4542. (オンライン)	Original Article
29	Miyaue N, Ochi C, Ito YH, et al	臨床薬理神経内科	Blepharoptosis As an Early Manifestation of Neuronal Intranuclear Inclusion Disease.	Intern Med. 2024 ; 63(8):1163–1166.	Case Report
30	Miyaue N, Yabe H, Nagai M	臨床薬理神経内科	Effect of concomitant use of esomeprazole on levodopa pharmacokinetics and clinical symptoms in patients with Parkinson's disease.	J Neurol Sci. 2024 Oct 15 ; 465:123202.	Original Article
31	Miyaue N, Yamamoto H, Liu S, et al	臨床薬理神経内科	Association of Enterococcus faecalis and tyrosine decarboxylase gene levels with levodopa pharmacokinetics in Parkinson's disease.	NPJ Parkinsons Dis. 2025 Mar 18 ; 11(1):49. (オンライン)	Original Article
32	Takahashi K, Nagakura KI, Miura Y, et al	周産母子センター	Long-term outcomes of low-dose followed by conventional oral immunotherapy for egg allergy.	Pediatr Allergy Immunol. 2025 Jan ; 36(1):e70027.	Letter

33	Kagajo M, Moritani K, Iwamoto M, et al	周産母子センター	Two cases of AMeD syndrome with isochromosome 1q treated with allogeneic stem cell transplantation.	Leuk Res Rep. 2024 Jul 24 ; 22:100476. (オンライン)	Case Report
34	Funamizu N, Sogabe K, Uraoka M, et al	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科	Recurrent cholangitis due to an intrahepatic calculus caused by migrated coil for vascular embolization: A case report.	Medicine (Baltimore). 2024 Dec 20 ; 103(51):e41038.	Case Report
35	A?al O, Sakamoto K, Tamura K, et al	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科	A Rare Presentation of Lymph Node Metastasis of VIPoma After Three Years of Resection: A Case Report.	Cureus. 2024 Apr 4 ; 16(4):e57628. (オンライン)	Case Report
36	Shigekawa S, Inoue A, Endo T, et al	てんかんセンター	Optimal treatment strategy for low-grade spinal cord astrocytoma: a retrospective, multicenter analysis by the Neurospinal Society of Japan.	J Neurosurg Spine. 2024 Sep 20 ; 41(6):699-707. (オンライン)	Original Article
37	Inagaki R, Kohno D, Shigekawa S, et al	てんかんセンター	Radiological and pathological findings of spinal intramedullary granular cell tumor.	Surg Neurol Int. 2025 Jan 31 ; 16:28. (オンライン)	Case Report
38	Nishikawa M, Inoue A, Moritani K, et al	てんかんセンター	An extremely rare case of primary alveolar rhabdomyosarcoma in the central nervous system.	Surg Neurol Int. 2024 Jun 28 ; 15:221. (オンライン)	Case Report
39	Inoue A, Miyazaki Y, Watanabe H, et al	てんかんセンター	Reliable intraoperative diagnostic methods for PCNSL: utility of combining intraoperative immunohistochemistry, cytology, and flow cytometry in achieving	Acta Neurol Belg. 2025 Feb ; 125(1):99-108.	Original Article
40	Inoue A, Watanabe H, Kusakabe K, et al	てんかんセンター	Three-dimensional amide proton transfer (APT) imaging applicable to navigation surgery can present comparable metabolic activity of glioblastoma to	Acta Neurochir (Wien). 2025 Feb 19 ; 167(1):49. (オンライン)	Original Article
41	Kusakabe K, Inoue A, Ohnishi T, et al	てんかんセンター	Hypoxia-Regulated CD44 and xCT Expression Contributes to Late Postoperative Epilepsy in Glioblastoma.	Biomedicines. 2025 Feb 5 ; 13(2):372. (オンライン)	Original Article
42	Kono K, Kinoshita T, Soufi M, et al	整形外科	Artificial intelligence-based analysis of lower limb muscle mass and fatty degeneration in patients with knee osteoarthritis and its correlation with	Int J Comput Assist Radiol Surg. 2025 Apr ; 20(4):635-642.	Original Article
43	Nishimura R, Kutsuna T, Kinoshita T, et al	整形外科	Immune-related Adverse Event with Checkpoint Inhibitors Might Be an Emerging Underlying Disease of Steroid-related Osteonecrosis of the Femur	J Orthop Case Rep. 2024 Aug ; 14(8):36-41.	Case Report
44	Kinoshita T, Hino K, Kutsuna T, et al	整形外科	Changes in the anteroposterior position of the femur relative to the tibia impact patient satisfaction in total knee arthroplasty.	BMC Musculoskelet Disord. 2024 Jul 15 ; 25(1):542. (オンライン)	Original Article
45	Kinoshita T, Hino K, Kutsuna T, et al	整形外科	Posterior capsular release improves intraoperative flexion contracture without affecting knee kinematics in posterior-stabilized total knee arthroplasty.	J ISAKOS. 2025 Mar 7 ; 12:100848.	Original Article
46	Yatsuzuka K, Muto J, Kohri N, et al	皮膚科	The use of upadacitinib to successfully treat eczematized psoriasis.	Int J Dermatol. 2025 Mar ; 64(3):582-583.	Letter
47	Yatsuzuka K, Yoshida S, Miura N, et al	皮膚科	Effectiveness of guselkumab for avelumab-induced psoriasis in urothelial carcinoma: A case report.	J Dermatol. 2025 Feb ; 52(2):e147-e148.	Letter
48	Dai X, Mizukami Y, Watanabe K, et al	皮膚科	Trehalose Prevents IL-4/IL-13-Induced Skin Barrier Impairment by Suppressing IL-33 Expression and Increasing NRF2 Activation in Human Keratinocytes In	J Invest Dermatol. 2025 Jun ; 145(6):1422-1432.e10.	Original Article
49	Yatsuzuka K, Matsumoto T, Kidani T, et al	皮膚科	Successful Treatment of Adalimumab-Induced Paradoxical Skin Reactions in Pustulotic Arthro-Osteitis With Guselkumab.	Cureus. 2024 Sep 27 ; 16(9):e70321. (オンライン)	Case Report

50	Yatsuzuka K, Muto J, Shiraishi K, et al	皮膚科	A Successful Switch From Ustekinumab to an Extended Dosing Interval of Guselkumab Without Induction in a Patient With Psoriasis Vulgaris.	Cureus. 2024 Jun 3 ; 16(6):e61567. (オンライン)	Case Report
51	Shiraishi K, Miyazaki Y, Kohri N, et al	皮膚科	Chilblains as a non-specific skin eruption in a patient with myelodysplastic neoplasm.	Eur J Dermatol. 2024 Jun 1 ; 34(3):298–300.	Case Report
52	Yatsuzuka K, Muto J, Shiraishi K, et al	皮膚科	Paradoxical Eczema Associated With Interleukin-17A Inhibitor Use in a Patient With Generalized Pustular Psoriasis Accompanied by Asthma.	Cureus. 2024 Jul 16 ; 16(7):e64680. (オンライン)	Case Report
53	Yatsuzuka K, Muto J, Murakami M	皮膚科	Comments about the comparative bulk RNA sequencing between palmoplantar pustulosis and dyshidrotic palmoplantar eczema.	F1000Res. 2024 Dec 6 ; 13:1494. (オンライン)	Original Article
54	Yoshida S, Kawakami R, Niko Y, et al	皮膚科	New Characteristics of Eccrine Sweat Glands in Acquired Idiopathic Generalised Anhidrosis as Determined via Three-Dimensional Fluorescence Imaging	Exp Dermatol. 2025 Mar ; 34(3):e70038.	Original Article
55	Tsuboi S, Yoshida S, Yatsuzuka K, et al	皮膚科	Eosinophilic fasciitis induced by immune checkpoint inhibitors successfully controlled with dapsone.	Eur J Dermatol. 2025 Feb 1 ; 35(1):58–60.	Original Article
56	Shiode R, Noda T, Nobumori S, et al	透析治療部	A case report of robot-assisted radical nephrectomy and inferior vena cava thrombectomy in a patient with renal cell carcinoma after pembrolizumab and	Transl Cancer Res. 2024 Sep 30 ; 13(9):5141–5148.	Case Report
57	Onishi T, Sakai H, Uno H, et al	透析治療部	Epidermal growth factor receptor contributes to indirect regulation of skeletal muscle mass by androgen.	Endocr J. 2025 Mar 3 ; 72(3):259–272.	Original Article
58	Watanabe R, Miura N, Kurata M, et al	透析治療部	Genetic Analysis of Intraductal Carcinoma of the Prostate Detected in High-Grade Prostatic Intraepithelial Neoplasia Cases.	Cureus. 2024 Dec 21 ; 16(12):e76165. (オンライン)	Original Article
59	Sugihara N, Hashine K, Yamashita N, et al	透析治療部	Can Pelvic Lymph Node Dissection in Prostate Cancer Patients with a 5% Brignani Nomogram Cut-off Value Provide an Oncological Benefit? A Large	Acta Med Okayama. 2024 Aug ; 78(4):307–312.	Original Article
60	Arai H, Sogabe H, Morikawa S, et al	透析治療部	A case of dedifferentiated liposarcoma discovered due to an intrascrotal calcified ossification.	Int Cancer Conf J. 2024 Apr 30 ; 13(3):301–305. (オンライン)	Original Article
61	Watanabe R, Miura N, Kurata M, et al	透析治療部	Unveiling the Genomic Landscape of Intraductal Carcinoma of the Prostate Using Spatial Gene Expression Analysis.	Int J Mol Sci. 2024 Apr 28 ; 25(9):4818. (オンライン)	Original Article
62	Miura N, Shimbo M, Okawa D, et al	透析治療部	Extended Lymph Node Dissection May Not Provide a Therapeutic Benefit in Patients with Intermediate-to High-Risk Prostate Cancer Treated with Robotic-	Cancers (Basel). 2025 Feb 14 ; 17(4):655. (オンライン)	Original Article
63	Watanabe R, Kagimoto K, Chosei M, et al	透析治療部	Vesicles Secreted by Renal Cell Carcinoma Cells Cause Vascular Endothelial Cells to Express PSMA and Drive Tumor Progression.	Cells. 2025 Jan 22 ; 14(3):165. (オンライン)	Original Article
64	Iwata S, Nishida N, Murakawa S, et al	耳鼻咽喉科	A Case of Thermal Burns of the Larynx in a Toddler.	Cureus. 2024 Dec 6 ; 16(12):e75240. (オンライン)	Case Report
65	Hanari T, Okada M, Nakata T, et al	耳鼻咽喉科	Efficacy of Concentrated Growth Factors in Treating Tympanic Membrane Perforation in Guinea Pigs.	J Int Adv Otol. 2025 Jan 27 ; 21(1):1–7.	Original Article
66	Teraoka M, Hato N, Inufusa H, et al	耳鼻咽喉科	Role of Oxidative Stress in Sensorineural Hearing Loss.	Int J Mol Sci. 2024 Apr 9 ; 25(8):4146. (オンライン)	Original Article

67	Iwata S, Murakawa S, Nishida N, et al	耳鼻咽喉科	Otosyphilis: A Rare Case of Unilateral Acute Sensorineural Hearing Loss.	Cureus. 2025 Jan 12 ; 17(1):e77338. (オンライン)	Case Report
68	Iwata S, Yamada H, Teraoka M, et al	耳鼻咽喉科	Basic fibroblast growth factor helps protect facial nerve cells in a freeze-induced paralysis model.	PLoS One. 2025 Feb 6 ; 20(2):e0312357. (オンライン)	Original Article
69	Tojo S, Nakashiro KI, Kuribayashi N, et al	歯科口腔外科・矯正歯科	Serum CXCL13 as a Novel Biomarker in Oral Squamous Cell Carcinoma.	Cancer Med. 2024 Sep ; 13(18):e70263.	Original Article
70	Saika M, Nakashiro KI, Tokuzen N, et al	歯科口腔外科・矯正歯科	Possible Role of miR-375-3p in Cervical Lymph Node Metastasis of Oral Squamous Cell Carcinoma.	Cancers (Basel). 2024 Apr 13 ; 16(8):1492. (オンライン)	Original Article
71	Kojima S, Kuribayashi N, Goda H, et al	歯科口腔外科・矯正歯科	Oral cancer driver gene mutations in oral potentially malignant disorders: clinical significance and diagnostic implications.	Discov Oncol. 2025 Feb 13 ; 16(1):174. (オンライン)	Original Article
72	Goda H, Nakashiro KI, Hino S, et al	歯科口腔外科・矯正歯科	Deep Cutaneous Candidiasis With Costal Osteomyelitis Following Pectoralis Major Myocutaneous Flap Reconstruction: A Case Report.	Cureus. 2025 Jan 29 ; 17(1):e78210. (オンライン)	Case Report
73	Kitazawa S, Haraguchi R, Kitazawa R	病理診断科・病理部	Roles of osteoclasts in pathological conditions.	Pathol Int. 2025 Feb ; 75(2):55–68.	Original Article
74	Iwata M, Haraguchi R, Kitazawa R, et al	病理診断科・病理部	Reduced chemokine C-C motif ligand 1 expression may negatively regulate colorectal cancer progression at liver metastatic sites.	J Cell Mol Med. 2024 Apr ; 28(7):e18193.	Original Article
75	Kitazawa R, Kitazawa S	病理診断科・病理部	On the Similarity Between Postpartum Autoimmune Abnormalities and Immune-Related Adverse Events (irAE) by Immune Checkpoint Inhibitors (ICI): The	Acta Histochem Cytochem. 2025 Feb 27 ; 58(1):1–8.	Original Article
76	Kitazawa R, Haraguchi R, Murata Y, et al	病理診断科・病理部	CpG Methylation of Receptor Activator NF- κ B (RANK) Gene Promoter Region Delineates Senescence-Related Decrease of RANK Gene Expression.	Acta Histochem Cytochem. 2024 Aug 29 ; 57(4):137–147.	Original Article
77	Sugiyama T, Kawasaki M, Arata N	周産母子センター	Clinical challenges in early pregnancy in Japan: An update on gestational diabetes.	J Diabetes Investig. 2024 Dec ; 15(12):1729–1731.	Original Article
78	Onji H, Tate S, Sakaue T, et al	周産母子センター	Schlafen 11 further sensitizes BRCA-deficient cells to PARP inhibitors through single-strand DNA gap accumulation behind replication forks.	Oncogene. 2024 Aug ; 43(32):2475–2489.	Original Article
79	Imai M, Liu S, Yano A, et al	周産母子センター	Feasibility and efficacy of pemetrexed for prevention of maternal high-fat intake-induced glucose metabolic dysfunction in offspring.	Biochem Pharmacol. 2024 Sep ; 227:116454.	Original Article
80	Inoue S, Takata Y, Tabara Y, et al	周産母子センター	The influence of hypertensive disorders of pregnancy on the development of long-term postpartum type 2 diabetes mellitus.	Endocr J. 2025 Mar 13.	Original Article
81	Inoue Y, Yokoyama M, Inoue S, et al	周産母子センター	Association between paternal physique and obesity in children at the age of 3 years: the Japan Environment and Children's Study.	J Dev Orig Health Dis. 2025 Mar 21 ; 16:e17. (オンライン)	Original Article
82	Yokoyama M, Miyakoshi K, Iwama N, et al	周産母子センター	Gestational diabetes in early pregnancy is associated with postpartum glucose intolerance: A perspective from the diabetes and pregnancy outcome for	J Diabetes Investig. 2025 Mar ; 16(3):535–542.	Original Article
83	Matsumoto H, Annen S, Mukai N, et al	救急科	Association of endotheliopathy with coagulofibrinolytic reactions and disseminated intravascular coagulation after trauma: a retrospective	Sci Rep. 2024 Nov 28 ; 14(1):29630. (オンライン)	Original Article

84	Kimura E, Kawakami Y, Inoue S, et al	医療情報部	Mapping Drug Terms via Integration of a Retrieval-Augmented Generation Algorithm with a Large Language Model.	Healthc Inform Res. 2024 Oct ; 30(4):355-363.	Original Article
85	Kimura E, Kawakami Y, Inoue S, et al	医療情報部	A dataset for mapping the Japanese drugs to RxNorm standard concepts.	Data Brief. 2025 Feb 21 ; 59:111418. (オンライン)	Original Article
86	Kawakami Y, Matsuda T, Hidaka N, et al	医療情報部	Toward a unified understanding of drug-drug interactions: mapping Japanese drug codes to RxNorm concepts.	J Am Med Inform Assoc. 2024 Jun 20 ; 31(7):1561-1568.	Original Article
87	Ogi Y, Sugishita H, Akita S, et al	小児総合医療センター	A case of robot-assisted resection for cecum cancer with anomalous venous confluence.	Asian J Endosc Surg. 2024 Jul ; 17(3):e13313.	Case Report
88	Ogi Y, Oshikiri T, Egi H, et al	小児総合医療センター	A prospective study on the enhancement of surgical safety in robotic surgery: The BirdView camera system.	Surg Today. 2025 Jun ; 55(6):746-753.	Original Article
89	Fujishita S, Inoue A, Watanabe H, et al	脳神経内科	A case of immunocompetent intracranial cryptococcoma in which intraoperative rapid pathological diagnosis and polymerase chain reaction led to early	Surg Neurol Int. 2024 Sep 13 ; 15:330. (オンライン)	Case Report
90	Okada Y, Tabara Y, Kohara K, et al	脳神経内科	Morphologic variation of the circle of Willis is associated with cognitive impairment in a general population: The J-SHIPP study.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2025 Jun ; 34(6):108287.	Original Article
91	Yamanaka S, Tanaka K, Miyagawa M, et al	腫瘍センター	Distinguishing Axillary Lymphadenopathy after COVID-19 Vaccination from Malignant Lymphadenopathy.	J Clin Med. 2024 Jun 9 ; 13(12):3387. (オンライン)	Original Article
92	Hosokawa T, Kawakami H, Tanabe Y, et al	PETセンター	Feasibility of left atrial strain assessment using cardiac computed tomography in patients with paroxysmal atrial fibrillation.	Int J Cardiovasc Imaging. 2024 Aug ; 40(8):1725-1734.	Original Article
93	Makita K, Hamamoto Y, Kanzaki H, et al	PETセンター	Prognostic assessment of patients with bone metastatic renal cell cancer treated with palliative radiotherapy.	Oncol Lett. 2024 Aug 7 ; 28(4):482. (オンライン)	Original Article
94	Morikawa T, Tanabe Y, Suekuni H, et al	PETセンター	Influence of deep learning-based super-resolution reconstruction on Agatston score.	Eur Radiol. 2025 Mar 20.	Original Article
95	Uraoka D, Matsuda M, Tanabe Y, et al	PETセンター	Usefulness of four-dimensional noise reduction filtering using a similarity algorithm in low-dose dynamic computed tomography for the evaluation of breast	Jpn J Radiol. 2025 May ; 43(5):787-799.	Original Article
96	Makita K, Hamamoto Y, Kanzaki H, et al	PETセンター	Impact of elective nodal irradiation a? 60 Gy on severe weight loss during intensity-modulated radiation therapy in patients with head and neck squamous	Rep Pract Oncol Radiother. 2024 Oct 3 ; 29(4):460-467. (オンライン)	Original Article
97	Akazawa Y, Higashi H, Miyoshi T, et al	第二内科	Utility of Adjunctive Impella Support to Venoarterial Extracorporeal Membrane Oxygenation for a Refractory Electrical Storm.	Cureus. 2024 Jul 12 ; 16(7):e64382. (オンライン)	Case Report
98	Goyo K, Ishimaru K, Miyaji T, et al	小児総合医療センター	A case of MCA arising from ICA: a case report.	Surg Case Rep. 2024 Apr 15 ; 10(1):86. (オンライン)	Original Article
99	Kume T, Mogi M	小児総合医療センター	The inseparable relationship between constipation and blood pressure.	Hypertens Res. 2025 May ; 48(5):1687-1689.	Original Article
100	Inoue H, Toriyama K, Murakami S, et al	屈折矯正センター	Clinical and bacteriological characteristics of Corynebacterium keratitis.	J Ophthalmic Inflamm Infect. 2025 Jan 9 ; 15(1):2. (オンライン)	Original Article

101	Okujima N, Imori H, Shiraishi A	屈折矯正センター	A Case of Childhood Acute Lymphoblastic Leukemia With Retinitis Pigmentosa-like Fundus Findings.	Cureus. 2025 Jan 7 ; 17(1):e77094. (オンライン)	Case Report
102	Takezawa Y, Kamon M, Hiraki-Kamon K, et al	屈折矯正センター	Experimental interventions attenuate a conjunctival epidermal metaplasia model.	Exp Eye Res. 2024 Jun ; 243:109916.	Original Article
103	Inoue H, Toriyama K, Takahira N, et al	屈折矯正センター	Association between Moraxella keratitis and advanced glycation end products.	Sci Rep. 2024 Apr 5 ; 14(1):8024. (オンライン)	Original Article
104	Imori H, Nishikawa N, Nishina S, et al	屈折矯正センター	Impact of prolonged digital device use on acquired comitant esotropia: ACE-DD study 2.	Jpn J Ophthalmol. 2025 Mar ; 69(2):166-173.	Original Article
105	Miyoshi T, Higashi H, Amemiya K, et al	第二内科	Cardiohistological Findings in Refeeding Syndrome.	Cureus. 2024 Aug 21 ; 16(8):e67430. (オンライン)	Case Report
106	Kamiyama M, Higaki A, Miyabe R, et al	第二内科	Right ventricular papillary muscle crossing the moderator band mimicked infective endocarditis: the utility of multimodal imaging.	Oxf Med Case Reports. 2024 Apr 25 ; 2024(4):omae026. (オンライン)	Case Report
107	Nishikawa T, Higaki A, Hosokawa T, et al	第二内科	Spontaneous Regression of Coronary Artery Fistula in 5q-Syndrome.	Circ J. 2024 Aug 23 ; 88(9):1500.	Case Report
108	Nishikawa T, Higaki A, Okada Y, et al	第二内科	Role of a Bioelectrical Impedance Analysis in Predicting Anemia among Cardiovascular Disease Patients.	Intern Med. 2025 Mar 15.	Original Article
109	Nishikawa T, Higaki A, Kurokawa K, et al	第二内科	Safety and Efficacy of Imeglimin for Type 2 Diabetes Mellitus in Patients With Heart Failure.	In Vivo. 2025 Jan-Feb ; 39(1):375-380.	Original Article
110	Nishimura T, Hirata Y, Ise T, et al	呼吸器センター	JCS/JSCVS/JCC/CVIT 2023 Guideline Focused Update on Indication and Operation of PCPS/ECMO/IMPELLA.	Circ J. 2024 May 24 ; 88(6):1010-1046.	Original Article
111	Kurobe H, Hori T, Fujita H, et al	呼吸器センター	Clinical efficacy of TEVAR utilizing fenestrated stent-grafts for zone 0 in an elderly frail patient with giant aortic arch aneurysm.	Ann Med Surg (Lond). 2024 Jun 13 ; 86(8):4854-4860. (オンライン)	Case Report
112	Sugihara T, Sano Y, Ueki T, et al	呼吸器センター	Successful conservative management of advanced pyogenic sternoclavicular joint arthritis with osteomyelitis and pulmonary infiltration: a case report.	J Med Case Rep. 2024 Aug 26 ; 18(1):394. (オンライン)	Case Report
113	Hayashi T, Sano Y, Tanaka K, et al	呼吸器センター	Predictors of postoperative atrial fibrillation after lung resection.	Curr Probl Surg. 2024 Aug ; 61(8):101502.	Original Article
114	Tachibana A, Iga JI, Ozaki T, et al	認知症疾患医療センター	Behavioral and psychological symptoms and brain volumes in community-dwelling older persons from the Nakayama Study.	Sci Rep. 2024 Oct 30 ; 14(1):26097. (オンライン)	Original Article
115	Soga J, Kawabe K, Horiuchi F, et al	認知症疾患医療センター	Sleep Awareness of Japanese Outpatients: A Survey at a Psychiatry Department of a University Hospital.	Clin Pract. 2024 Oct 15 ; 14(5):2116-2124. (オンライン)	Original Article
116	Ochi S, Tsuboi T, Hasegawa N, et al	認知症疾患医療センター	The association between benzodiazepine prescriptions and the risk of laxative use in schizophrenia treatment.	Neuropsychopharmacol Rep. 2025 Mar ; 45(1):e12499.	Original Article
117	Yoshino Y, Iga JI, Ueno SI	認知症疾患医療センター	A Novel Mutation of FOXC1 (P136L) in an Axenfeld-Rieger Syndrome Patient With a Systematized Delusion of Jealousy: A Case Report and Literature	Mol Genet Genomic Med. 2024 Nov ; 12(11):e70008.	Case Report

118	Yoshino Y, Yagi T, Tsubouchi K, et al	認知症疾患医療センター	Effects of Psychotropic Medications Taken by Pregnant Women on Newborn Medical Condition and Lactation Method.	Neuropsychopharmacol Rep. 2025 Mar ; 45(1):e70005.	Original Article
119	Funahashi Y, Dwivedi Y	認知症疾患医療センター	Epigenetics and suicidal behavior in adolescents: a critical review.	Epigenomics. 2025 Mar ; 17(4):247-262.	Original Article
120	Mori H, Yoshino Y, Okano M, et al	認知症疾患医療センター	Association Between Stress-Induced Weight Loss and Autophagy-Related Gene Expression in the Hippocampus and Midbrain of Depression Model Mice.	Neuropsychopharmacol Rep. 2025 Mar ; 45(1):e12515.	Original Article
121	Iga JL, Yoshino Y, Ozaki T, et al	認知症疾患医療センター	Blood RNA transcripts show changes in inflammation and lipid metabolism in Alzheimer's disease and mitochondrial function in mild cognitive impairment.	J Alzheimers Dis Rep. 2024 Dec 23 ; 8(1):1690-1703. (オンライン)	Original Article
122	Yamamoto W, Hamada T, Suzuki J, et al	痛みセンター	Suppressive effect of the anesthetic propofol on the T cell function and T cell-dependent immune responses.	Sci Rep. 2024 Aug 20 ; 14(1):19337. (オンライン)	Original Article
123	Nagaoka T, Sakamoto K, Ogawa K, et al	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科	Shorter Drainage Tube to the Pancreatic Stump Reduces Pancreatic Fistula After Distal Pancreatectomy.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2024 Dec 1 ; 34(6):571-577. (オンライン)	Original Article
124	Sakamoto K, Iwamoto Y, Ogawa K, et al	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科	Impact of reconstructed portal vein morphology on postoperative nutritional status in pancreateoduodenectomy: a computational fluid dynamics study.	Surg Today. 2025 Mar ; 55(3):445-451.	Original Article
125	A?al O, Sakamoto K, Tamura K, et al	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科	Robot assisted anatomical liver resection is safe for patient with hepatocellular carcinoma underlying Fontan-associated liver disease.	Hepatobiliary Pancreat Dis Int. 2025 Feb ; 24(1):111-113.	Letter
126	Sakamoto A, Ogawa K, Shine M, et al	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科	Impact of tumor proximity to vessel on conversion in laparoscopic liver resection: A retrospective cohort study.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2024 Jul ; 31(7):437-445.	Original Article
127	Nishi Y, Sakamoto K, Uraoka M, et al	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科	Liver resection in patients with a history of local ablation for hepatocellular carcinoma has the risk of poor survival and serosal invasion.	Ann Gastroenterol Surg. 2024 Nov 18 ; 9(2):347-358. (オンライン)	Original Article
128	A?al O, Sakamoto K, Tamura K, et al	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科	Laparoscopic liver resection for a patient of hepatocellular carcinoma with von Willebrand disease: a case report.	Surg Case Rep. 2024 Jun 27 ; 10(1):162. (オンライン)	Original Article
129	Watanabe T, Tokumoto Y, Ochi H, et al	第三内科	Clinical factors to predict changes of esophagogastric varices after sustained viral response with direct-acting antiviral therapy.	J Gastroenterol. 2025 Feb ; 60(2):222-234.	Original Article
130	Okujima Y, Watanabe T, Ito T, et al	第三内科	PKR associates with 4.1R to promote anchorage-independent growth of hepatocellular carcinoma and lead to poor prognosis.	Sci Rep. 2024 Nov 13 ; 14(1):27768. (オンライン)	Original Article
131	Imai Y, Koizumi Y, Hiasa Y, et al	第三内科	Standard technique in Japan for measuring hepatic venous pressure gradient.	J Gastroenterol. 2025 Jan ; 60(1):24-31.	Original Article
132	Nakamura Y, Hirooka M, Koizumi Y, et al	第三内科	Diagnostic accuracy of ultrasound-derived fat fraction for the detection and quantification of hepatic steatosis in patients with liver biopsy.	J Med Ultrason (2001). 2025 Jan ; 52(1):85-94.	Original Article
133	Hashimoto Y, Tokumoto Y, Watanabe T, et al	第三内科	C16, a PKR inhibitor, suppresses cell proliferation by regulating the cell cycle via p21 in colorectal cancer.	Sci Rep. 2024 Apr 19 ; 14(1):9029. (オンライン)	Original Article
134	Shioi A, Miyake T, Furukawa S, et al	第三内科	Combined effect of histological findings and diabetes mellitus on liver-related events in patients with metabolic dysfunction-associated steatotic liver	Hepatol Res. 2024 Nov ; 54(11):1016-1026.	Original Article

135	Hino K, Nishina T, Koizumi M, et al	第三内科	A multicenter prospective observational study for health assessment questionnaires EQ-5D-5L and G8 in unresectable advanced pancreatic cancer	Int J Clin Oncol. 2025 Apr ; 30(4):738-748.	Original Article
136	Kokubu M, Imamura Y, Kumagi T, et al	第三内科	Pancreatic congestion is associated with exocrine pancreatic function in liver cirrhosis.	Hepatol Res. 2025 May ; 55(5):685-695.	Original Article
137	Ishikawa S, Koizumi M, Kokubu M, et al	第三内科	Retrieval technique for a sheared guidewire remnant in the gallbladder duct using a novel basket catheter.	Endoscopy. 2024 Dec ; 56(S 01):E939-E940.	Original Article
138	Kawamoto R, Kikuchi A, Ninomiya D	総合診療科	Can Serum Gamma-Glutamyl Transferase Predict All-Cause Mortality in Hypertensive Patients?	Cureus. 2024 Aug 30 ; 16(8):e68247. (オンライン)	Original Article
139	Inaba S, Ikeda S, Fujiwara Y, et al	総合診療科	Diagnosis of COVID-19: Is Fever the Best Indicator of COVID-19 in Vaccinated SARS-CoV-2-Positive Adults?	Cureus. 2024 Sep 5 ; 16(9):e68749. (オンライン)	Original Article
140	Kawamoto R, Kikuchi A, Ninomiya D, et al	総合診療科	Smoking Status and Premature Death Among Japanese Rural Community-Dwelling Persons.	Tob Use Insights. 2024 Oct 1 ; 17:1179173X241275881. (オンライン)	Original Article
141	Kawamoto R, Asuka K, Ninomiya D, et al	総合診療科	High serum uric acid/creatinine ratio is a useful predictor of hypertension among Japanese community-dwelling persons.	Clin Hypertens. 2025 Mar 1 ; 31:e9. (オンライン)	Original Article
142	Kawamoto R, Kikuchi A, Ninomiya D, et al	総合診療科	Alcohol consumption and high-molecular-weight adiponectin levels are interactively associated with all-cause mortality among community-dwelling	Alcohol Clin Exp Res (Hoboken). 2025 May ; 49(5):1097-1105.	Original Article
143	Inoue K, Sakae T, Yoshino M, et al	第二内科	Understanding of therapeutic efficacy of coronary intervention by echocardiography in a patient with acute coronary syndrome.	J Echocardiogr. 2025 Jun ; 23(2):137-138.	Original Article
144	Takahashi K, Kodama A, Uemura S, et al	第二内科	Bilateral isolated coronary ostial stenosis in a middle-aged premenopausal woman with vasospastic angina: a case report.	Eur Heart J Case Rep. 2024 May 15 ; 8(5):ytae249. (オンライン)	Case Report
145	Takahashi K, Yamamura N, Yamauchi K, et al	第二内科	Downsloping TP Segment in the Precordial Leads on a Standard 12-lead Electrocardiogram: Suspected Cardiac Impulse-tapping Artifact.	Intern Med. 2025 Jan 15 ; 64(2):243-249.	Case Report
146	Inoue K, Smiseth OA	第二内科	Left atrium as key player and essential biomarker in heart failure.	J Cardiol. 2025 Jan ; 85(1):8-16.	Original Article
147	Inoue K, Nakao Y, Saito M, et al	第二内科	Determinants of left atrial reservoir strain and diagnostic potential for cardiac amyloidosis in pathological left ventricular hypertrophy.	Cardiovasc Ultrasound. 2025 Mar 17 ; 23(1):4. (オンライン)	Original Article
148	Matsubara K, Matsubara Y, Uchikura Y, et al	小児科	Stimulation of Angiotensin II Receptor Subtype 2 Reduces Preeclampsia-like Symptoms in a Mouse Model of Preeclampsia.	Curr Issues Mol Biol. 2024 Sep 2 ; 46(9):9760-9771. (オンライン)	Original Article
149	Nakaguchi H, Matsuura B, Miyake T, et al	第三内科	Body Composition Changes and Factors Influencing the Total Weight Loss Rate After Laparoscopic Sleeve Gastrectomy.	Clin Pract. 2024 Dec 5 ; 14(6):2608-2622. (オンライン)	Original Article
150	Igase M, Igase K, Hino S, et al	抗加齢・予防医療センター	Association of Periodontitis with Mild Cognitive Impairment in Older Adults.	JAR Life. 2024 Dec 4 ; 13:108-112. (オンライン)	Original Article
151	Nogami N, Kubo T, Bessho A, et al	第二内科	A single arm Phase I/II trial on the combination of carboplatin, nab-paclitaxel and avastin as first-line treatment for advanced non-squamous	Jpn J Clin Oncol. 2024 Jul 7 ; 54(7):805-812.	Original Article

152	Nogami N, Umemura S, Kozuki T, et al	第二内科	A phase 1 study of pembrolizumab plus ipilimumab as first-line treatment in Japanese patients with advanced non-small-cell lung cancer.	Respir Investig. 2025 May ; 63(3):296–302.	Original Article
153	Akita S, Ishimaru K, Sato M, et al	消化器腫瘍外科	Early Laparoscopic Colostomy in Advanced Cancer Patients with Rectovaginal Fistula: Results of Seven Patients.	J Nippon Med Sch. 2024 Aug 21.	Original Article
154	Watanabe M, Isobe N, Niino M, et al	脳神経内科	Prevalence of, and Disability Due to, Multiple Sclerosis and Neuromyelitis Optica Spectrum Disorder in Japan by the Fifth Nationwide Survey.	Neurology. 2024 Nov 26 ; 103(10):e209992.	Original Article
155	Kikuchi A, Kawamoto R, Abe M, et al	総合臨床研修センター	Ambiguous motivations in medical school applicants: a retrospective study from Japan.	Med Educ Online. 2025 Dec ; 30(1):2467487.	Original Article
156	Funaki A, Mori H, Onozawa S, et al	形成外科	Management of Giant Type II Arteriovenous Malformation of the Neck With Heart Failure in a Pediatric Patient With Coil and NLE Embolization: A Case	J Endovasc Ther. 2024 Oct 9:15266028241283313.	Original Article
157	Yatsuzuka K, Muto J	皮膚科	The role of BIO potency in treatment algorithms: A hypothetical proposal for optimizing biologic therapies in psoriasis with atopic predisposition	MED HYPOTHESES.2025 JAN:194:2	Letter
158	Mizumoto M, Jogamoto T, Mizumoto J, et al	小児科	Caregivers' perspectives on disaster preparedness and evacuation plan for children relying on home ventilators or home oxygen	INT J DISAST RISK RE.2024 JUN:108:7	Original Article
159	Kawamoto R, Kikuchi A, Ninomiya D, et al	地域医療学	Handgrip Strength and Body Mass Index Independently Predict All-Cause Mortality in Japanese Older Adults: An 8-Year Cohort Study	INT J GERONTOL.2024 OCT:18(4):5	Original Article
160	渡邊 祥二郎,矢 野 真啓,青木 利 紗 他	小児科	肝移植後肝静脈狭窄による二次性膜性 増殖性糸球体腎炎の1例	日本小児腎臓病学会雑誌 ; 2024.:37:1-7	Original Article
161	吉田 諭,八束 和 樹,桑折 信重 他	皮膚科	MEK阻害剤が有効であったNRAS変異陽 性悪性黒色腫の1例	Skin Cancer ; 2024.10:39:152–156	Original Article
162	桑折 信重,吉田 諭,八束 和樹 他	皮膚科	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌USA300株 による壊死性軟部組織感染症の1例	臨床皮膚科 ; 2025.01:79:75–80	Original Article
163	桑折 信重,白石 研,八束 和樹 他	皮膚科	尋常性天疱瘡から移行した落葉状天疱 瘡にリツキシマブが奏効した1例	臨床皮膚科 ; 2024.06:78:501–507	Original Article
164	岩田 麻里,八束 和樹,吉田 諭 他	皮膚科	広範囲の毛細血管拡張から疑い診断した 血管内大細胞型B細胞リンパ腫の1例	西日本皮膚科 ; 2024.04:86:165– 169	Original Article
165	飴矢 美里,田中 加緒里,羽藤 直 人	耳鼻咽喉科	犬咬傷による喉頭外傷の1例	耳鼻と臨床 ; 2024.09:70:287–292	Original Article
166	中田 貴大,岩田 真治,西田 直哉	耳鼻咽喉科	COVID-19オミクロン株による急性喉頭炎 の2例	耳鼻咽喉科臨床 ; 2024.09:117:835–840	Original Article
167	渡邊 愛沙,藤井 知美,藤岡 志帆 他	麻酔科蘇生科	神経障害性疼痛に対し脊髄刺激療法が 有効であった乳がんの腕神経叢転移例	日本ペインクリニック学会誌 ; 2024.10:31:229–230	Original Article
168	菊池 幸太郎,濱 松 勇輝,濱田 泰 輔 他	麻酔科蘇生科	中心静脈カテーテル挿入時にガイドワイヤーがユースタキオ弁に絡みつき抜去に 難済した一例	Cardiovascular Anesthesia ; 2024.09:28:103–106	Original Article

169	五藤 凌志,中西 和雄,藤谷 太郎 他	麻酔科蘇生科	先行留置した中心静脈カテーテルを誤つて穿通した1症例	麻酔 ; 2024.04:73:253-256	Original Article
170	栗林 恭子,内田 大亮	歯科口腔外科・矯正歯科	愛媛大学医学部附属病院における矯正歯科患者の実態調査	愛媛医学 ; 2024.09:43:137-145	Original Article
171	森 秀樹,戸澤 麻美,上村 由美子 他	形成外科	歯性上顎洞炎から広範囲顔面壞疽に至った1例	日本頭蓋頸顔面外科学会誌 ; 2024.09:40:115-123	Original Article
172	松本 雄貴,井上 明宏,金並 真吾 他	検査部	髄液一般検査におけるメラニン色素含有細胞の同定が癌性髄膜炎の早期診断・治療に寄与した脳原発悪性黒色腫の1例 臨床における検査部と他部門との連携の	医学検査 ; 2024.07:73:582-587	Original Article
173	中田 行洋,高崎 康史,萬家 俊博	集中治療部	右小開胸低侵襲心臓手術後の再膨張性肺水腫の管理に左右別独立肺換気が有効であった1例	愛媛医学 ; 2024.06:43:99-104	Original Article
174	田口 加奈,村上 朱里,西山 加那子 他	乳腺センター	C区域乳がんに対する乳房部分切除術後の乳輪・乳頭の偏位に影響を及ぼす因子の探索	Oncoplastic Breast Surgery ; 2024.09:9:84-90	Original Article
175	西山 加那子,青野 真由子,奥島 久美子 他	乳腺センター	乳癌術前化学療法中に発症したpegfilgrastimによる大型血管炎の1例	日本臨床外科学会雑誌 ; 2024.05:85:599-605	Original Article
176	久門 志敬,竹下 英次,橋本 悠 他	第三内科	今月の症例 上部消化管内視鏡検査を契機に診断された梅毒の1例	日本内科学会雑誌 ; 2024.05:113:842-846	Original Article
177	伊藤 千尋,船水 尚武,曾我部 恭成 他	肝臓・胆のう・膵臓・移植外 科	開腹肝胆脾外科手術におけるボビドンヨードとオラネキシシングルコン酸塩による創感染発症率の後ろ向き比較試験	日本外科感染症学会雑誌 ; 2024.09:20:519-526	Original Article
178	西 悠介,船水 尚武,伊藤 千尋 他	肝臓・胆のう・膵臓・移植外 科	ABCB4遺伝子変異を認めLow Phospholipid Associated Cholelithiasisと診断した若年性多発肝内結石症の1例	肝臓 ; 2024.11:65:566-571	Original Article
179	矢野 晶子,今井 純,井上 翔太 他	周産母子センター	シングルセル解析を用いた妊娠時における脂肪組織の変化	糖尿病と妊娠 ; 2024.08:24:S-121-S-123	Original Article
180	井上 翔太,杉山 隆	周産母子センター	妊娠高血圧症候群とCDKAL1による将来の生活習慣病発症リスク予測 東温ゲノムスタディ	糖尿病と妊娠 ; 2024.08:24:S-128-S-129	Original Article
181	今井 純,矢野 晶子,井上 唯 他	周産母子センター	高脂肪食摂取マウスにおける妊娠期の薬物介入が次世代の糖質代謝に与える影響	糖尿病と妊娠 ; 2024.08:24:S-124-S-125	Original Article
182	杉原 直哉,坂本 みき,寺下 誠人 他	透析治療部	間欠自己導尿中に発生し,レーザー焼灼術と5-フルオロウラシル尿道内注入療法にて治癒した尿道尖圭コンジローマの一例	西日本泌尿器科 ; 2024.04:86:255-259	Original Article
183	岡田 知久,吉田 和樹,井上 勝次 他	PETセンター	心尖部心室瘤と冠動脈左室瘻を認めた肥大型心筋症の1例	臨床放射線 ; 2024.05:69:397-401	Original Article
184	川本 貴康,吉田 素平,押切 太郎 他	小児総合医療センター	腹腔鏡内視鏡合同手術で核出術を施行し診断的治療を行った胃glomus腫瘍の1例	愛媛医学 ; 2024.12:43:219-224	Original Article
185	山下 大介,金久 浩大,大塚 祥浩 他	てんかんセンター(見込み)	胎児期水頭症と診断された先天性トキソプラズマ症の1例	小児の脳神経 ; 2024.08:49:105-111	Original Article

186	間島直彦,渡森一光,高尾正樹他	整形外科	リング型創外固定器を用いて再建した先天性下腿偽関節症の一症例	日本四肢再建・創外固定学会雑誌 ; 2024.08:35:33-40	Original Article
187	Eguchi M	周産母子センター	[Supporting career development of female physicians and researchers].	Rinsho Ketsueki. 2024 ; 65(8):769-776.	Original Article

計187件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet alとする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 卷数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none">手順書の主な内容 <p>研究者等の責務等、病院長の責務等、倫理審査委員会、研究の適正な実施等、研究の信頼性確保、重篤な有害事象への対応に関する手順、個人情報等、研究実施に関する窓口</p>	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none">規定の主な内容 <p>利益相反管理の対象、利益相反委員会、利益相反相談室、自己申告書の提出等の手続き</p>	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 12 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容 <p>臨床研究を適正に行うための基礎知識、臨床研究にかかる申請等手続きについて 研究計画時に考えておきたい統計学的事項</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

第一内科【血液内科】【膠原病・リウマチ内科】【感染症内科】

第一内科の専門領域は、血液、膠原病・リウマチ、感染症である。カンファレンスやセミナーを頻回に開催し、内科学会総合内科専門医、血液学会専門医、リウマチ学会専門医、感染症学会専門医を取得できるように、研修・指導を行っている。また、最近社会的ニーズが非常に高い臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医の育成にも努力している。

第二内科【循環器内科】【呼吸器内科】【腎臓内科】

当科に所属する日本内科学会総合内科専門医、日本循環学会専門医、日本呼吸器学会専門医、日本腎臓専門医、日本老年病専門医、日本臨床遺伝専門医、日本アレルギー学会専門医、日本不整脈学会専門医、日本高血圧学会専門医が血管機能解析、腎生検、血液浄化療法、肺癌化学療法、経気管支鏡的肺生検・吸引針生検、冠動脈形成術、心臓再同期療法、心筋焼灼療法等の高度医療を指導し、専門医の育成を行っている。

第三内科【消化器内科】【肝臓内科】【内分泌代謝内科】

この領域は、第三内科が研修を担当する。消化器病として消化管・肝・胆・膵領域、甲状腺・副腎皮質などの内分泌領域、糖尿病をはじめとする糖代謝、脂質代謝、尿酸代謝、金属代謝などの代謝領域、および栄養学の研修を指導した。研修では各々の領域の患者に対して先端的な診療、検査に触れるとともに、カンファレンスを通して理解を深め、目標を持ち自律的意欲的に研修、習得する医師の養成を目指している。当科のスタッフは日本内科学会指導医、日本消化器病学会指導医、日本肝臓学会指導医、日本超音波学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本糖尿病学会指導医、日本内分泌学会指導医、日本アレルギー学会指導医、日本病態栄養学会専門医、NST稼働施設責任者等の各種指導資格を有しており、各領域の専門研修による専門医の育成とともに、内科を幅広く柔軟に診療できる内科医の育成を目指して研修・指導を行っている。

脳神経内科【老年・神経内科】

神経内科、老年病、脳卒中、認知症などの専門医が、神経疾患、脳卒中や認知症の診療を教育した。入院診療では、免疫性神経疾患や変性疾患などを主体として、神経学的診察、末梢神経・中枢神経の電気生理検査、針筋電図や超音波検査(頸部血管、経頭蓋、経食道)などの専門手技の研修を行った。また、認知症診療では、愛媛県認知症疾患医療センターやもの忘れ外来診療を中心に、薬物治療や介護保険の利用法、その他の社会支援制度利用や生活指導の方法などの教育を行っている。

糖尿病内科・臨床検査医学【糖尿病内科】

糖尿病専門医・指導医、内科専門医・指導医による専門的かつ総合的な研修を実施している。具体的には、1型糖尿病の診断・管理、急性代謝異常の診断・管理、2型糖尿病の診断・管理、その他特定の型(2次性)糖尿病の診断・管理、糖尿病合併妊娠及び妊娠糖尿病の診断・管理、周術期の血糖管理、持続皮下インスリン注入療法(CSII)を用いた血糖管理、持続血糖測定(CGM)を用いた血糖管理、ならびに糖尿病合併症の診断・治療・管理・予防教育を行っている。

臨床薬理神経内科【薬物療法・神経内科】

脳神経疾患の診断・治療・教育研修とともに、特に難治性神経疾患の治療薬の研究・開発・研修を行っている。また、臨床研究に必要な手法の研究開発と基盤整備、および法務上必要な研修、指導を行っている。研修後に総合内科専門医、神経内科専門医、認知症専門医、頭痛専門医、臨床薬理専門医を取得している。

【精神科】

大学病院及び関連病院にて研修を行っている。後期研修以降は、それぞれのサブスペシャリティを決定し、その分野で研鑽をつみ、精神科医としての技能や知識を習得する。また、下記の項目にも重点をおく。

1. 児童思春期、青年期、老年期のそれぞれの年代の症例、また器質性、機能性、反応性の各精神障害の症例すべての臨床経験を獲得するよう主治医としてかかわる。
2. 臨床研究として、学会発表を行う。
3. 国内・国際学会、教室内外の勉強会に参加する。
4. クロザピン投与、修正型電気けいれん療法、光トポグラフィーなど極めて専門性の高い検査・治療に携わる。また、臨床経験5年後には、精神保健指定医を取得し、日本精神神経学会専門医の獲得ができるよう環境を整えている。

小児科【小児科】

後期研修1年目より専門医の取得を目指し小児の各分野の高度医療を実践する。特に新生児の管理・治療、小児がんの造血細胞移植などの高度医療、循環器疾患のインターベンション治療を含めた高度医療、難治性神経疾患の治療、遺伝性疾患の遺伝カウンセリングなどの他、感染症、内分泌・代謝、アレルギー、腎、膠原病などの幅広い小児科の分野の研修を行っている。また研修期間中は予防接種、健診などの予防医療についても研修を行っている。

消化器腫瘍外科【消化器腫瘍外科】

消化器（主に消化管）癌に対する外科的治療（開腹、内視鏡、ロボット支援手術）を系統的に学び、更に化学療法、放射線治療などの集学的治療による治療戦略を学ぶことができる臨床研修を行う。外科専門医のみならず内視鏡外科技術認定医を目指した高度な手術技術を指導する。ドライラボ、アニマルラボ、シミュレータ、カダバーによる習熟度に応じた手術指導も定期的に開催し、スキルアップを図る体制を用意している。

肝胆脾・乳腺移植外科【肝臓外科】【胆のう外科】【膵臓外科】【乳腺外科】【移植外科】

肝臓、胆のう、膵臓疾患について、画像診断から治療方針の決定、外科治療など消化器外科専門医並びに消化器病専門医及び肝胆脾外科高度専門医を取得できるように、研修、指導を行っている。

心臓血管・呼吸器外科【心臓血管外科】【呼吸器外科】

1. 心臓血管外科においては、外科専門医、心臓血管外科専門医の資格の取得に必要な、経験、技術、知識、人間性を習得することを目標として、将来、専門医として社会貢献できる医師を目指す研修を行っている。

2. 呼吸器外科においては、外科専門医、呼吸器外科専門医の取得が可能。呼吸器外科疾患の適切な診断能力と治療方針はもちろん、呼吸器センターの一員として、あらゆる状況において応用可能な能力を身につける研修を行っている。

脳神経外科【脳神経外科】

日本脳神経外科学会研修プログラムに則って、研修指導医の下で、脳神経外科の診断と治療に必要な知識と基本的技術を習得させるため、基本診療科の一つとして、愛媛大学と関連連携施設で研修をすすめる。当施設では脳卒中センター、脊椎センター、手術手技研修センターにおいて、脳卒中の急性期治療（脳血管内治療を含む）、脊椎・脊髄疾患の診療、手術に必要な微小解剖のトレーニングを中心としている。脳腫瘍・脳血管疾患、脊椎。脊髄の主要な疾患の他に、小児脳神経外科、機能神経外科、感染症などの田崎な疾患群全てを研修可能である。それによって、脳神経外科専門医取得にあたっての、十分な臨床経験を積める環境が整っている。

整形外科【整形外科】

運動器疾患全般に関して、科学的知識と高い社会的倫理観を備えた医師を養成すべく、進歩する

医学知識と最新の医療技術を研鑽させた。特に以下の3点に重点を置いた教育を行っている。

1, 高齢者のQOLを支える医療

2, エビデンスに基づく幅広い治療方針

3, 水準の高い治療で早期の社会復帰をサポート

さらに、整形外科専門医習得に必要な臨床症例の経験と論文作成・学術発表の指導も行っている。

皮膚科【皮膚科】 【形成外科】

皮膚科学会、形成外科学会の研修施設認定を受けている。皮膚科では湿疹や感染症などの日常的疾患から、皮膚がん、自己免疫性疾患、重症薬疹、先天性疾患などの希少疾患までを対象とした総括的かつ専門性の高い研修を行っている。必要研修期間終了時には専門医の取得が可能である。形成外科では小児の先天性疾患からマイクロサージャリーによる再建手術まで、広範囲かつ高度な専門的な技術を習得できる研修を行っている。いずれも必要研修期間終了時には専門医の取得が可能であり、その後さらに皮膚腫瘍外科専門医、レーザー専門医、頭蓋顎顔面外科専門医などの取得也可能である。

泌尿器科【泌尿器科】

副腎、尿路、男性生殖器の診断、治療に関する研修を行う。効率的に泌尿器科医としての研修を受け、10年間の研修を修了すれば、泌尿器科医として独り立ちできるように県下基幹病院と協力して独自の研修システムを整備している。その中で当科では、腎や副腎、膀胱などの鏡視下手術、ロボットを用いた前立腺手術、各種開腹手術、尿路結石や膀胱癌に対しての内視鏡的手術、婦人科泌尿器科手術、慢性腎不全に導入から腎移植までの研修を行っている。また、尿路上皮癌や前立腺癌に対する抗癌化学療法や放射線治療なども、全国的にリーダー的存在で、専門性の高い研修を行っている。

眼科【眼科】

日本眼科学会の研修プログラム基幹研修施設として眼科指導医のもとで、眼科学の進歩に応じて、眼科医の知識と医療技術を高め、すぐれた眼科医を養成するための指導を行っている。研修プログラムでは、外来患者および年間1000例以上の手術症例を中心に、眼科一般の診断と治療に必要な知識と基本的技術を取得させる内容となっている。また、高度な医療技術、特に難易度の高い手術のための知識やその実行には、頭頸部のより高度な解剖学的知識が要求されるため、御遺体を用いて以下の涙道手術手技研修を行っている。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科【耳鼻咽喉科】

日本耳鼻咽喉科学会の研修施設認定を受けており、耳鼻咽喉科学ならびにその関連領域における医学の進歩に応じて、耳鼻咽喉科医の知識と医療技術を高め、すぐれた耳鼻咽喉科医の養成を図った。研修プログラムには、耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部の各領域における十分な専門性を有する指導医をおき、年間500例以上の手術症例を中心に研修を行った。人工内耳などの最先端耳鼻咽喉科医療の指導体制も充実している。

放射線科【放射線診断分野】 【放射線治療分野】

1. 診断専門医は、画像診断（X線、CT、MRI、超音波等）、核医学、インターベンションラジオロジー（IVR）の専門的知識と診療技術を習得し、この知識と技術に基づいた検査の選択・指示・実施・管理等が出来るようになる。

2. 放射線治療専門医は、悪性腫瘍および一部の良性疾患に関して、放射線治療の効果、照射術式とその計画、有害事象、治療前中後の管理などについての専門知識と診療技術を駆使した適正な放射線治療が行えるようになる。

産婦人科【周産期医学分野】 【婦人科腫瘍分野】 【女性医学分野】 【生殖医療分野】

日本産科婦人科学会専門医指導医のもと、上記4領域において患者を担当する医療者チームの一員として診断・治療に携わる。4領域に関する研修ガイドラインに基づいて臨床に必要な基本知識・産

婦人科疾患に対する検査・診断・治療を以下の項目を目標に修得する。

1. 周産期医学分野：母体合併症妊娠における母児の問題点および管理法、超音波検査を用いた胎児の推定体重や血流測定を含めた胎児の元気度の評価や構造異常の評価に関して修得する。分娩管理については、分娩進行の評価につき研修し、分娩介助および帝王切開の適応・手技についても修得する。

2. 婦人科腫瘍分野：婦人科疾患における超音波検査・CT検査・MRIなどの画像診断を用いた診断学の修得を行う。内診による腫瘍の進展度の評価やコルポスコピによる子宮頸部病変の評価について研修する。開腹術・腹腔鏡下の婦人科手術手技を理解し、基本的手技および周術期管理の実際について修得する。

3. 女性医学分野：女性の内分泌疾患に対する診断・管理やホルモン補充療法、更年期障害に対するアプローチについて研修する。

4. 生殖医療分野：不妊症の検査・診断および生殖補助技術*以外の排卵誘発法やタイミング法などの基本的な治療について研修する。（*:生殖補助技術については、他施設において研修する。）

麻酔科【麻酔科蘇生科】

臨床の現場において、手術における全身麻酔や区域麻酔、集中治療管理、痛みの治療の研修指導を行い、さらに下記の研修を通して、より高度な医療技術を身につけるよう指導する。

1. 高機能シミュレータを用いた全身麻酔手技の習得
2. 危機的状況を想定したシナリオトレーニング
3. 緩和ケア医療の研修

リハビリテーション部【リハビリテーション科】

日本リハビリテーション医学会専門医の指導の下、以下の項目を目標とした教育プログラムを行っている。

1. 診断学：リハビリテーションを行う上で必要な、各種画像検査・電気生理学的検査・病理診断・超音波検査などを、評価・施行できる。運動障害や高次脳機能障害だけでなく、嚥下障害、心肺機能障害、排泄障害の評価といった、関連領域も評価ができる。

2. 治療：全身状態の管理ができる。障害評価に基づく治療計画が立てられる。各種リハビリテーション（理学療法・作業療法など）に加え、義肢装具の処方・ブロック療法・薬物治療・生活指導などができる。

救急科【救急科】

専攻医には、以下の3つの学習方法で専門研修を行う。

1. 臨床現場での学習：経験豊富な指導医が中心となり救急科専門医や他領域の専門医とも協働して、専攻医に広く臨床現場での学習を提供する。

- 1) 救急診療や手術での実地修練(on-the-job training)
- 2) 診療科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンス
- 3) 抄読会・勉強会への参加
- 4) 臨床現場でのシミュレーションシステムを利用した、知識・技能の習得

2. 臨床現場を離れた学習：国内外の標準的治療および先進的・研究的治療を学習するために、救急医学に関連する学術集会、セミナー、講演会およびJATEC、JPTEC、ICLSコースなどのoff-the-job training course に積極的に参加する。救命処置法の習得のみならず、インストラクターコースへ参加できるように配慮し、その指導法を学ぶ。また、研修施設もしくは日本救急医学会等が開催する認定された法制・倫理・安全に関する講習にそれぞれ少なくとも1回は参加する。

3. 自己学習専門研修期間中の疾患や病態の経験値の不足を補うために、日本救急医学会等が準備する「救急診療指針」、e-Learningなどを活用した学習を病院内や自宅で利用できる機会を提供する。研修プログラムの実際と特徴としては、本研修プログラムは、各専攻医の希望を考慮し、個々の基本モジュールの内容を吟味した上で、基幹施設・連携施設のいずれの施設からの開始に対しても対応できるように設計された研修コースである。本研修プログラムによる救急科専門医取得後には、集中治療、外傷、熱傷などの救急科関連領域の医療技術向上および専門医取得を目指す臨床

研修や、リサーチマインドの醸成および医学博士号取得を目指す研究活動を選択することが可能。プログラム期間中に当大学病院等で研修を行いながら愛媛大学大学院医学系研究科への社会人大学院進学を認めている。また本研修プログラム管理委員会は、基幹研修施設である愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センターと協力し、大学卒業後2年以内の初期研修医の希望に応じて、将来、救急科を目指すための救急医療に重点を置いた初期研修プログラム作成にもかかわっている。

歯科口腔外科・矯正歯科【歯科口腔外科】

外来における初診患者の問診、初診診察、診断、治療の口腔外科疾患一連の流れ、および手術手技難易度分類の中等度までにおける外来外科処置の執刀および術後のfollowを行っている。また、病棟においては入院から退院までの口腔癌、顎変形症、炎症、外傷、嚢胞性疾患患者等の患者管理および中等度相当までの執刀を指導医の元、経験する。臨床外に関しては、口腔外科関連論文の抄読会を担当し、学術的理解にも励んでいる。

病理診断科・病理部【病理科】

病理専門医は、病理学総論と諸臓器の疾患に関する病理学的知見に基づいて、医療の根幹である病理診断（病理解剖、手術・生検標本診断、細胞診）を行い、臨床医との相互討論を通じて医療の質を担保し、高度先進医療、地域医療の推進に寄与する。本院では、「患者に学び患者に還元する医療」の姿勢で、医療倫理、医療安全を実施し、社会的ニーズに応じた病理専門医を育成する。病理専門研修では、日本病理学会の「専門研修手帳」に記された基準を満たすよう、知識・技能・態度の指導を行う。病理解剖については、視聴覚教材とマンツーマン指導による手技の修得・肉眼所見と病理組織標本検鏡・診断書作成、全例CPCを行う。手術・生検標本の診断と細胞診断は、業務マニュアルによる切り出し手技や報告書作成の標準化と、指導医によるマンツーマン指導・全例検閲を行う。臨床科との症例検討会での発表討論を日常的に行い、愛媛県病理研究会、中四国支部会、日本病理学会総会での症例報告を指導する。基礎の病理学講座との連携のもとに、分子病理学的研究手法の研鑽を奨励する。病理診断学の修練のみならず、専門医取得後のキャリア形成に留意し、後進の指導にあたる人材育成を目指す。

睡眠医療センター【睡眠医療】

睡眠障害の診断・治療について、専門的研修を実施する。日本睡眠学会認定医療機関であり、年間200例以上の終夜睡眠ポリグラフィ実施を基盤とした睡眠障害の生理学的診断法、ならびに睡眠覚醒メカニズムに即した治療手法について、学会認定医が研修を担当する。国際学会での発表、論文指導も行う。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	159 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
竹中 克斗	第一内科	教授	34年	
山之内 純	輸血・細胞治療部	准教授	29年	血液
薬師神 芳洋	腫瘍センター	教授	37年	腫瘍内科

池田 俊太郎	循環器内科	教授	32年	
山口 修	呼吸器内科	教授	30年	循環器・呼吸器・高血 圧内科学
日浅 陽一	第三内科	教授	34年	消化器・内分泌・代 謝内科学
大八木 保政	脳神経内科	教授	40年	神経内科・老年病
永井 将弘	臨床薬理神経内 科	准教授	36年	
上野 修一	精神科	教授	40年	
江口 真理子	小児科	教授	34年	
檜垣 高史	小児・思春期	教授	37年	
田内 久道	感染制御部	教授	35年	
押切 太郎	消化管腫瘍外科	教授	30年	
榎田 祐三	肝臓・胆のう・ 膵臓・移植外科	教授	25年	消化器外科、肝胆膵 ・移植外科
泉谷 裕則	心臓血管・呼吸 器外科	教授	37年	心臓血管外科
國枝 武治	脳神経外科	教授	31年	脳神経外科
高尾 正樹	整形外科	教授	27年	
藤澤 康弘	皮膚科・形成外 科	教授	27年	
雜賀 隆史	泌尿器科	教授	38年	
白石 敦	眼科	教授	39年	
羽藤 直人	耳鼻咽喉科	教授	36年	耳鼻咽喉科

城戸 輝仁	放射線科	教授	25年	放射線診断分野
杉山 隆	産婦人科	教授	38年	周産期・女性医学分野
西原 佑	麻酔科蘇生科	教授	20年	
佐藤 格夫	救急科	教授	29年	
内田 大亮	歯科口腔外科・矯正歯科	教授	30年	
北澤 理子	病理診断科・病理部	特命教授	30年	
岡 靖哲	睡眠医療センタ 一	准教授	32年	睡眠医療

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

「医療安全セミナー：検体の採取と取り扱いの注意点」

・研修の期間・実施回数

2024年5月～7月31日・対面講義1回とe-learning

・研修の参加人数

不明

・研修の主な内容：

「倫理、個人情報保護および接遇について」（検査部勉強会）

・研修の期間・実施回数

2024年4月23日・1回

・研修の参加人数：56名

・研修の主な内容：「国公私立大学病院診療放射線技術者研修」

・研修の期間・実施回数：2024年10月7日～10月11日 5日間

・研修の参加人数：1名

・研修の主な内容： 病棟看護師研修（ICU2で使用する薬剤、鎮静剤や昇圧剤、抗生剤と細胞外液の配合変化について）

・研修の期間・実施回数：2024年6月27日

・研修の参加人数： 10名

・研修の主な内容： 病棟看護師研修（抗がん剤の薬効・副作用について）

・研修の期間・実施回数：2024年5月23日

・研修の参加人数： 8名

・研修の主な内容： 内視鏡検査・治療における薬剤の安全な使用方法について

～鎮静薬・鎮痛薬・麻薬・拮抗薬～

・研修の期間・実施回数：2024年5月31日

・研修の参加人数： 10名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

「オーバーキャップ採血管の特徴と採血に必要な基礎知識」

・研修の期間・実施回数

2025年2月26日・1回

・研修の参加人数

24名

・研修の主な内容：「第39回放射性医薬品取り扱いガイドライン講習会」

・研修の期間・実施回数：2024年2月5日～3月5日

・研修の参加人数：2名

・研修の主な内容： 令和6年度第1回医療安全に関する講演会「安全な医薬品の取り扱い」

・研修の期間・実施回数：2024年4月22日

・研修の参加人数： 166名 (e-learning 1296名、DVD回覧 19名)

・研修の主な内容： 令和6年度医療安全セミナー「薬剤の誤投与後の対応について・麻薬の安全な取り扱いについて・麻薬施用者免許申請手続きについて」

・研修の期間・実施回数：2024年5月23日

・研修の参加人数： 95名 (e-learning 1107名)

・研修の主な内容： 令和6年度医療安全セミナー「インスリン製剤の注意点・ポリファーマシー対策」

・研修の期間・実施回数：2024年7月30日

・研修の参加人数： 61名 (e-learning 825名)

・研修の主な内容： 令和6年度医薬品副作用被害救済制度に関するe-learning

・研修の期間・実施回数：2024年9月9日～10月31日

・研修の参加人数： 939名

・研修の主な内容 第1回 国立大学病院臨床工学技士協議会 管理職基礎研修会

・研修の期間・実施回数：2024年2月5日 WEB開催

・研修の参加人数： 5名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容： 特定薬剤管理指導加算2算定を対象とした外来がん化学療法に

関する研修会（第6回）

- ・研修の期間・実施回数：2025年3月10日（Web形式）
- ・研修の参加人数： 116名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 杉山 隆	
管理担当者氏名	医療情報部長 木村 映善 看護部長 崎田 智美 薬剤部長 田中 守 放射線部長 城戸 輝仁 ME機器センター長 泉谷 裕則 総務課長 織田 隆司 医事課長 高木 剛造 人事労務課長 米田 健 研究協力課 平野 和宏 医療サービス課長 松尾 一恵	

管 理 方 法	保 管 場 所	診 療 に 関 す る 諸 記 録	規 則 第 二 十 二 条 の 三 第 二 項 に 掲 げ る 事 項
カルテは医療情報部で一括管理（主に電子カルテ、古いものは一部紙カルテ）1患者1カルテとし、病院外への持ち出しありは例外を除き原則禁止。持ち出す場合は、申請・審査を受ける。处方せんは紙媒体にて法令で定める期間保管している（院外への持ち出しありは禁止）	総務課 各診療科 薬剤部 医療情報部 医療情報部 医療情報部 放射線部 医療情報部 医療情報部	病院日誌 各科診療日誌 処方せん 手術記録 看護記録 検査所見記録 エックス線写真 紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	
電子媒体にて保管。高度の医療が提供された際には診療録に記載・保管される。また、定期的に診療録よりデータ抽出し一覧を保存している。倫理審査委員会、利益相反、臨床研究の倫理に関する講習等に関する諸記録について、研究協力課でデータ及び紙媒体にて保管している。電子媒体または紙媒体にて保管。紹介患者に対する医療が提供された際には診療録に記載・保管される。また、紹介・逆紹介患者数について月次で統計資料を作成・保管している。入院患者数、外来患者数については医事会計システムにより月次でデータを抽出し統計資料を作成・保管	人事労務課 医事課 研究協力課 各診療科 総務課 医事課 医事課、薬剤部	従業者数を明らかにする帳簿 高度の医療の提供の実績 高度の医療技術の開発及び評価の実績 高度の医療の研修の実績 閲覧実績 紹介患者に対する医療提供の実績 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項

			している。
規則 第一條の十一 第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療サービス課	指針については、医療安全管理マニュアルに掲載しており、全職員が院内情報ネットワークで閲覧可能である。変更等が必要な場合は、医療安全管理委員会にて審議を行っている。
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療サービス課	医療安全管理委員会を月1回開催している。
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療サービス課	安全管理のための職員研修は、年2回以上実施している。
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	医療サービス課	事故発生(ヒヤリハット含む)時には、各部署からインシデントレポートが提出され、各部署において事例の振り返り、カンファレンス等を行い改善に努めている。必要に応じて診療科を交えたインシデント事例検討会等を開催し、医療安全管理部を中心に内容の精査や再発防止策を提案し、医療安全管理委員会等にて報告や周知等を実施している。

		保管場所	管理办法
病院の管理及び運営に関する諸記録 規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療サービス課	
	院内感染対策のための委員会の開催状況	医療サービス課	
	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療サービス課	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	医療サービス課	
	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のために必要な未承認等の医薬品の使用情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	薬剤部	
	医療機器安全管理責任者の配置状況	ME機器センター	
	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター	

		保管場所	管理办法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部、総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部、総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部、総務課
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部、総務課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部、総務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療サービス課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療サービス課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療サービス課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療サービス課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部、総合診療サポートセンター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医療サービス課、人事労務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理办法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	運営部長 仙波 文彦	
閲覧担当者氏名	総務課長 織田 隆司	
閲覧の求めに応じる場所	総務課	
閲覧の手続の概要		
閲覧請求者は、国立大学法人愛媛大学情報公開取扱規程に基づき「法人文書開示請求」を提出し、承認の決定後、「開示の実施方法の申出書」に基づき閲覧する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延 0 件
閲 覧 者 別	医師 延 0 件
	歯科医師 延 0 件
	国 延 0 件
	地方公共団体 延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容 : <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者中心の医療の実践 2. チーム医療の実践 3. 医療安全に関する組織的取組み 4. インシデントの報告と情報の共有 5. 機能する医療事故防止対策 6. 適切な医療事故への対応 7. 患者相談の実施、指針等の閲覧 8. 医療安全管理教育・研修、啓発 9. その他の医療安全推進への対応 10. 医療安全管理マニュアルの作成・更新 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療に係る安全管理のための指針の策定及び変更に関すること 2. 医療事故防止対策の検討及び研究に関すること 3. インシデントの分析及び再発防止策の検討に関すること 4. 医療事故調査制度に対応する死亡原因判定に関すること 5. 医療事故防止のための啓発、教育及び研修に関すること 6. 医療事故に対する対応策の策定に関すること 7. 患者及び家族等の被害者への対応に関すること 8. 関係公的機関への報告に関すること 9. 報道に関すること 10. その他、医療安全管理及び医療事故対策に関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <p>第1回：当院の医療安全管理体制について、安全な医薬品の取り扱い (R6/4/22 開催、e-learning 5/8～6/28、R7/1/27～3/31)</p> <p>第2回：空の安全管理システムと当社の取り組み (R6/7/26 開催、e-learning 8/9～9/30、R7/1/27～3/31)</p> <p>第3回：患者の安全を最優先に考えるチームワークトレーニング (R6/8/6、10/28 開催)</p> <p>第4回：消費者安全調査委員会（消費者事故調）について -検討対象・分析方法・対策具申について- (R6/9/20開催、e-learning 10/7～12/31、R7/1/27～3/31)</p> 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有） ・ その他の改善の方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全ラウンド：年2回計画的に実施 →病棟や外来診療科を対象に、医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士 	

等がチームとなり、安全管理体制や誤認防止対策、医薬品や医療機器の適切な使用・管理方法等についてラウンドを実施している。

(第1回：R6/5/17～7/23実施、第2回：R6/10/11～12/23実施)

2. インシデント報告後の現場ラウンド、ヒアリング（随時）

→インシデント報告後、医療安全管理部職員が内容を確認し、必要に応じて現場ラウンドやヒアリングを実施し、インシデント報告会等にて内容の分析や再発防止策について検討を行っている。

3. 医療安全シンポジウム：年1回医療現場からの公募方式で実施

→医療安全に関するテーマ（連絡、共有等）を決め、各部署にて取り組んだ改善事項等について発表し、情報共有を図っている。

（R6/11/25実施）

4. 関連会議での検討・報告：月1回実施

→インシデント事例について、インシデント検討会議・医療安全管理部会議で発生機序や改善策の検討を行っている。その後、リスクマネジヤー会議で改善策の意見を収集、更に検討し、医療安全管理委員会に報告している。また、医療安全ラウンドで改善策が現場で適切に実施されているか、有効的に機能しているか等の実施状況を確認し、結果を医療安全管理委員会で報告するとともに、必要に応じて見直しを行なっている。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容 : <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 院内感染対策のための委員会その他院内の組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本指針 4. 感染症の発生状況の対応に関する基本指針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本指針 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本指針 7. その他院内感染対策の推進のための基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容 : <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染の調査、予防対策に関すること 2. 院内感染防止の実施、監視及び指導に関する活動 3. 院内感染発生時の措置に関すること 4. 職員の院内感染の教育に関すること 5. その他院内感染防止に関すること 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容 (すべて) : <p>第1回 : 抗菌薬適正使用と MRSA、SAVE LIVES : clean your hands (命を救うあなたの手) (R6/5/28 開催、e-learning R6/6/10～7/10)</p> <p>第2回 : 歯性感染症と AST、安全な口腔ケアのために (R6/10/4 開催、e-learning R6/10/15～11/15)</p> <p>第3回 : 気がつけばそこに！！～忍び寄る耐性菌～、最近の抗菌薬事情 (R7/1/30 開催、e-learning R7/2/4～2/26)</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有) ・ その他の改善のための方策の主な内容 : <p>ICT会議において事例を検討し、問題点の分析を実施している。また、その結果を含めて院内感染対策委員会へ報告し、重要な事例については病院運営委員会及び病院連絡協議会に報告している。</p> <p>研修会には、参加者アンケートから研修会の要望を調査し、次年度の研修計画の参考としている。</p> 	

週に1回院内をラウンドし、感染対策についての確認を行うと共に各セクションの責任者（病棟医長・看護師長等）へサーベイランスデータを元に資料を提供し、改善事項をフィードバックしている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	(有) 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容 : <p>令和6年度第1回医療安全に関する講演会 「安全な医薬品の取扱い」</p> <p>令和6年度医療安全セミナー 「薬剤の誤投与後の対策について」</p> <p>令和6年度医薬品副作用被害救済制度に関するe-learning</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容 : <p>医薬品の安全使用のための業務に関する手順書として「医薬品安全管理手順書」を作成（平成19年7月1日策定、令和7年7月10日改訂）。</p> <p>医薬品安全手順書に基づく業務の各部署実施状況の確認は、医療安全管理部と薬剤部が協働して行う年2回の医療安全ラウンドにおいて行い、業務改善が必要な事項について指導し、改善を図っている。医療安全ラウンドでの各部署における確認結果は、医療安全管理部会議、医療安全管理委員会、リスクマネジヤー会議で報告を行い、院内での情報共有を行っている。さらに、薬剤部で毎月開催している医薬品安全管理カンファレンスにおいても医療安全報告を行い、薬剤師間での情報共有を図っている。</p>
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <p>未承認薬：中耳炎、外耳炎の治療における特に耐性菌を目的とした耳内洗浄液として院内製剤迅速調整ブロー液を使用</p> <p>適応外使用：ステロイド抵抗性の造血幹細胞移植後特発性肺炎症候群に対するエタネルセプト療法</p>

禁忌：精神症状の改善のための糖尿病患者に対するクエチアピンの使用

- ・ その他の改善の方策の主な内容：

- 調剤時以外での禁忌該当薬剤の確認体制

薬剤部薬品情報管理室において、処方薬剤に対して禁忌病名が登録されている入院患者情報を抽出している。抽出された情報に基づき病棟担当薬剤師が担当医に禁忌該当薬剤に対する疑義照会を行い、当該薬剤処方継続の可否の確認、必要に応じて処方提案を行っている。また、疑義照会の結果、既に終了している病名であった場合は病名整理を依頼し、適切に医薬品が使用できるよう努めている。また、これらの病名に関する禁忌の情報は毎月医事課にも報告しており、医事課からも病名整理を依頼している。

- 医療安全管理委員会への医薬品安全管理報告体制

医薬品安全管理体制を担っている部門（薬剤部）における医薬品の安全使用に係る業務を医療安全管理委員会へ報告している。内容は、院内副作用報告件数および医薬品安全性情報報告件数、院内院外疑義照会件数、プレアボイド報告件数、禁忌該当薬剤の確認数等である。医療安全管理委員会は医薬品安全管理体制の部門を監査し、必要に応じて意見することとしている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 56回
研修の主な内容 :	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生命維持管理装置を中心とした医療機器安全管理講習会 10回開催 参加のべ人数 503名 ・ 新規医療機器安全管理講習会 20回開催 参加のべ人数 439名 ・ 不定期の医療機器使用における説明会 26回開催 参加のべ人数 357名 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容 : 日常点検、定期点検 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例) <ul style="list-style-type: none"> 該当する医療機器 : 経頸静脈経肝門脈アクセスキット 使用目的 : 門脈圧亢進症患者に対する経静脈的肝内門脈肝静脈短絡療法 (TIPS) 施行のため ・ その他の改善の方策の主な内容 : <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療機器の使用等についてインシデントが発生した場合は、インシデント検討会議、リスクマネジャーハンモンドにて事例を分析し、改善策等を立案している。また、立案した改善策については医療安全管理委員会にて報告し承認を得た後、リスクマネジャーハンモンドやME機器センター発信のインフォメーションにおいて院内に周知している。 2) 医療機器に関する不具合や安全情報の一環として、院内で発生したインシデントに関しても必要に応じて医療機器安全管理委員会で協議し、医療安全管理部と連動して安全情報の共有に努めている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
<ul style="list-style-type: none">・責任者の資格（医師・歯科医師）・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況	
<p>愛媛大学医学部附属病院副病院長に関する規定</p> <p>第3条3</p> <p>病院長は、医療安全を担当する副病院長を医療法施行規則第9条の20の2第1項第1号に規定する医療安全管理責任者に指名し、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括させる。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（3名）
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none">・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <p>薬品情報管理室において医薬品に関する情報（イエローレター、ブルーレター、回収・出荷停止、適正使用のお願い、医薬品・医療機器等安全性情報、医薬品安全対策情報、PMDA医療安全情報、日本医療機能評価機構医療安全情報、添付文書改訂、PMDAからの公知申請情報・適応外情報）を一元的に収集し、院内メーリングリストや院内インターネット、電子カルテ掲示板を利用し周知している。また、DIニュース、プレアボイドニュース、医薬品安全使用ニュース、薬事委員会において決定した新規採用・削除薬一覧表（New Face）を作成し、メーリングリストおよび紙媒体等を用いて院内へ周知している。</p> <p>特に重要な情報（イエローレター、ブルーレター、その他薬品情報管理室が重要と判断した内容）については、上記の周知に加えてデータウェアハウスを用いて抽出した該当薬品使用中の全患者を対象とした適正使用のモニタリング、処方医に対する電子カルテでの個別メールによる情報提供も行っている。</p> <ul style="list-style-type: none">・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <p>院内において未承認、適応外あるいは禁忌薬（以後、未承認新規医薬品等）を新たに使用する場合には、未承認新規医薬品等評価部に必要書類を提出する。書類とは①未承認新規医薬品等申請・報告書式、②患者向け説明文書、③患者同意書、④患者同意撤回書、⑤未承認新規医薬品等を使用する根拠となるエビデンス（文献等）、⑥医薬品を用いる場合は当該医薬品の添付文書であり、</p>	

未承認新規医薬品等評価部は申請内容に関して未承認新規医薬品等評価委員会に意見を求めた上で使用の可否を決定する。なお、医学倫理委員会の審査が必要と判断された場合には、その審査の結果を以って使用可否の判断を行う。また、承認された未承認新規医薬品等に関しては未承認新規医薬品等評価部で実施報告書や適正使用モニタリング等の管理を行う。

また、薬剤部において薬剤師が調剤時に当該薬品が未承認新規医薬品等に該当すると認識した場合は、担当医へ疑義照会を行い、妥当性の確認や処方提案を行っている。結果に関しては診療録へ記録し、必要に応じて医薬品安全管理責任者へ報告している。これらの未承認新規医薬品等に係る疑義照会情報は薬品情報管理室で収集し、院内の医療安全管理委員会へ報告する体制をとっている。

- ・担当者の指名の有無 (有) 無)

- ・担当者の所属・職種 :

(所属 : 未承認新規医薬品等評価部, 職種 薬剤師 (副薬剤部長))

(所属 : 薬剤部 , 職種 薬剤師 (薬品情報管理室室長))

(所属 : , 職種) (所属 : , 職種)

(所属 : , 職種) (所属 : , 職種)

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

有

- ・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)
- ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 : 確認方法→各リスクマネジャーを通して確認
指導内容→説明内容、説明手順、説明方法、成立要件、説明同意書、診療録への記載、責任者の配置

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有

- ・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容 :

毎月、10件のカルテを選出し多職種による診療記録監査を実施している。監査結果は、記載上の注意事項等コメントを付け、診療科にフィードバックしている。監査結果からあがった課題等は診療記録管理委員会で審議し、必要に応じて院内周知を行っている。年1回、全体報告として病院運営委員会で報告、共有している。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員：専従（3）名、専任（2）名、兼任（17）名 <ul style="list-style-type: none"> うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（8）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（5）名 <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 報告があったインシデントのモニタリング、分析及び影響レベルの判定に関すること 2. インシデント審議委員会及びインシデント調査委員会に関すること 3. インシデントごとの解決策及び再発防止策の企画・立案に関すること 4. 医療安全体制システム及びマニュアルの見直しに関すること 5. 医療安全管理委員会で決定した事項についての周知の確認及びそれに必要な指導に関すること 6. 安全管理に関する教育・研修等の実施に関すること 7. 医療安全管理委員会の資料及び議事録の作成・保存等の運営に関すること 8. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び必要な指導に関すること。 9. 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況についての確認及び必要な指導に関すること 10. 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認及び必要な指導に関すること 11. 他の委員会、患者相談窓口等他部門及びリスクマネジャー等との連絡調整に関すること 12. 医療事故防止等に係る情報提供に関すること 13. その他医療の質の向上及び安全管理に関すること <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療に係る安全の確保に資する診療の状況を把握するため、医療安全指標18項目（75歳以上退院患者の入院中の予期せぬ外相性頭部損傷発生率、死亡退院患者率、退院後30日以内の予定外再入院率、退院後3日以内の予定外再入院率、がん患者の周術期口腔機能管理実施率、精神病棟入院患者における精神科身体合併症加算算定率、予定入院患者における入退院支援加算算定率、急性期脳梗塞患者の早期リハビリテーション開始率、がん患者（5大がん）の周術期リハビリテーション実施率、急性心筋梗塞患者における入院当日もしくは翌日のアスピリン処方率、胃・十二指腸内視鏡的粘膜下層剥離術後の輸血実施率、食道悪性腫瘍術後の在院死亡率、肝悪性腫瘍術後の在院死亡率、肺悪性腫瘍術後の在院死亡率、急性期脳梗塞患者における退院時抗血小板薬処方率、超低出生体重児および極低出生体重児の生存退院立、100床あたりのインシデント報告件数、インシデント報告における医師・歯科医師の報告割合）について定期的なモニタリングを実施しており、年次推移お 	

および他病院（国立大学附属病院など43病院）との比較データ・分析結果を医療安全管理委員会などで報告・検討している。

- ・当院が医療の質指標として公表している「リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率」等を踏まえ、医療安全に資する診療内容についてのモニタリングを平時から行っている。
- ・従事者の医療安全に対する認識に関しては、医療安全に関する講演会やセミナーの受講状況やアンケート結果を毎回集計するなど平時からモニタリングを実施しており、その結果は医療安全管理委員会等で報告・分析している。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（5件）、及び許可件数（5件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：
高難度新規医療技術を用いた医療の適正な提供を目的として、高難度新規医療技術の審査を行い、適否等の決定を行う。また、承認した高難度新規医療技術には、定期的な報告を義務付け、実施された全ての症例について、医療の安全性、適正性等を確認・評価する。有害事象及び死亡事例が発生した場合には、実施状況を確認した上で、必要に応じて対策等を講じる。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（34件）、及び許可件数（32件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：
未承認新規医薬品等を用いた適正な医療の提供を目的として、未承認新規医薬品等の審査を行い、

適否等の決定を行う。また、承認した未承認新規医薬品等には、定期的な報告を義務付け、使用状況をモニタリングする。有害事象及び死亡事例が発生した場合には、未承認新規医薬品等が適正に使用されていたか全例確認する。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 175 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 289 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

○患者影響レベル 3b 以上のインシデントの分析及び再発防止策の検討。

→インシデントレポート入力時に各部署が問題点を分析し、報告しているが、

不明な点は医療安全管理部 GRM が現場を訪問し、追加情報を得て問題点を分析している。

その後、インシデント検討会議・医療安全管理部会議で事例を報告し、改善策の検討を行い、リスクマネジヤー会議で改善策の意見を収集、更に検討を行い、最終的には医療安全管理委員会にて報告している。全職員を対象に、インシデントを適切に報告する指導を年 1 回実施するとともに、月 1 回インシデント報告の実施状況を確認し、管理者である病院長及び医療安全管理委員会にて報告を行っている。

○死亡事例検討会の結果報告確認。

→入院患者が死亡した場合、担当医は速やかに当該死亡の事実および死亡前の状況を死亡時スクリーニングシートを用いて医療安全管理部に報告を行っている。入院患者の全死亡事例について、月 1 回、医療安全管理部を中心に関連診療科を含め、死亡事例検討会を開催している。結果については、管理者である病院長及び医療安全管理委員会にて報告を行っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：鹿児島大学））
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：岐阜大学））
- ・技術的助言の実施状況

- 医療安全管理部に看護師が1名であるため、業務負担となっており、増員について助言あり。
→令和7年4月より看護師2名（専従1名、専任1名）体制となった。
- 高難度新規医療技術について、実施後、関連病院へ転院された患者について、報告期間は、その後の経過の情報共有を依頼する等、その後のフォローについて助言あり。
→報告書に転院先を記載する欄を追加し、フォローできる体制を構築した。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

総合診療サポートセンターが患者からの相談窓口となっている。個室の面談室9室、オープンな相談ブースを4ヶ所設置し、対応している。中でも、医療安全に係る相談については、総合診療サポートセンターのメディエーターが主に対応し、医療サービス課・医療安全管理部が連携できる体制をとっている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 新規採用者へのオリエンテーション
2. 医療安全に関する講演会（4回）
3. 医療安全セミナー（6回）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が、公益財団法人特定機能評価機構主催の「2024年度特定機能病院管理者研修（継続）」を受講した。

（注）前年度の実績を記載すること

⑯医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のため講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

2022年2月に、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価のうち、主たる機能種別「一般病院3」及び副機能種別「精神科病院」を受審し、2022年8月19日付けで認定を受けた。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

上記受審による審査結果報告書の改善要望事項の該当については、院内で共有するとともに、外部からも審査結果報告書の内容を確認出来るように、医学部附属病院ホームページのトップページに日本医療機関評価機構ホームページへのリンクを設置している。

・評価を踏まえ講じた措置

審査結果報告書により、評価判定結果が「B」であったセクションに関して、関係部署にて改善策を検討し、改善状況および計画等を「改善状況報告書」として作成し、取りまとめて院内で共有した。また、評価判定結果が「C」であったセクションに関しては、院内で改善策を継続的に実践し、これについて評価機構における確認審査を受審した結果、「条件付解除」となり、令和6年12月に改善審査を受審し、認定継続となった。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師免許を有している者 ・ 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 ・ 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者 ・ 教育・研究・診療に必要な資質・能力を有している者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有・<input type="radio"/> 無） ・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 愛媛大学ホームページに掲載

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 	
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由	
氏名	所属
八尋 秀典	理事（教育担当）
羽藤 直人	医学系研究科長
竹中 克斗	医学系研究科医学専攻長
山下 政克	医学部附属病院副病院長（橋渡し研究推進担当）
崎田 智美	医学部附属病院看護部長
大熊 伸定	弁護士
岡部 直	愛媛県保健福

	社部長		係る責任者として、地域の医療政策に関する豊富な経験と高い識見を有している。	
横山 ぬい	(株)エス・ピー・シー		学外有識者：愛媛大学経営協議会の委員であり、メディア事業を通じて、地域活性化について豊富な経験と高い識見を有している。	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無																																																																				
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 運営方針、中期計画、予算及び決算その他病院の運営に関する重要事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 愛媛大学医学部内職員サイトに資料・議事要旨を掲載 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有・無） ・公表の方法 愛媛大学ホームページに掲載 ・外部有識者からの意見聴取の有無（<input checked="" type="radio"/> 有・無） 																																																																					
合議体の委員名簿																																																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>氏名</th> <th>委員長 (○を付す)</th> <th>職種</th> <th>役職</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>杉山 隆</td><td>○</td><td>医師</td><td>病院長、周産母子センター長</td></tr> <tr><td>竹中 克斗</td><td></td><td>医師</td><td>副病院長（総務・教育担当）第一内科長</td></tr> <tr><td>雜賀 隆史</td><td></td><td>医師</td><td>副病院長（診療担当）泌尿器科長、手術部長、高難度新規医療技術評価部長</td></tr> <tr><td>山口 修</td><td></td><td>医師</td><td>副病院長（経営・再開発担当）、第二内科長</td></tr> <tr><td>鈴木 純</td><td></td><td>医師</td><td>副病院長（医療安全・危機対策担当）、医療安全管理部長</td></tr> <tr><td>崎田 智美</td><td></td><td>医師</td><td>副病院長（患者サービス担当）、看護部長</td></tr> <tr><td>山下 政克</td><td></td><td>医師</td><td>副病院長（橋渡し研究推進担当）</td></tr> <tr><td>日浅 陽一</td><td></td><td>医師</td><td>第三内科長</td></tr> <tr><td>大八木 保政</td><td></td><td>医師</td><td>脳神経内科長</td></tr> <tr><td>高田 康徳</td><td></td><td>医師</td><td>糖尿病内科学・臨床検査医学科長</td></tr> <tr><td>永井 将弘</td><td></td><td>医師</td><td>臨床薬理神経内科長、臨床研究支援センター長</td></tr> <tr><td>阿部 雅則</td><td></td><td>医師</td><td>総合診療科長</td></tr> <tr><td>上野 修一</td><td></td><td>医師</td><td>精神科長</td></tr> <tr><td>江口 真理子</td><td></td><td>医師</td><td>小児科長、臨床遺伝医療部長、移行期医療センター長</td></tr> <tr><td>押切 太郎</td><td></td><td>医師</td><td>消化器腫瘍外科長、低侵襲がん治療センター長</td></tr> <tr><td>模田 祐三</td><td></td><td>医師</td><td>肝臓・胆のう・脾臓・移植外科長、臓器・組織移植</td></tr> </tbody> </table>		氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職	杉山 隆	○	医師	病院長、周産母子センター長	竹中 克斗		医師	副病院長（総務・教育担当）第一内科長	雜賀 隆史		医師	副病院長（診療担当）泌尿器科長、手術部長、高難度新規医療技術評価部長	山口 修		医師	副病院長（経営・再開発担当）、第二内科長	鈴木 純		医師	副病院長（医療安全・危機対策担当）、医療安全管理部長	崎田 智美		医師	副病院長（患者サービス担当）、看護部長	山下 政克		医師	副病院長（橋渡し研究推進担当）	日浅 陽一		医師	第三内科長	大八木 保政		医師	脳神経内科長	高田 康徳		医師	糖尿病内科学・臨床検査医学科長	永井 将弘		医師	臨床薬理神経内科長、臨床研究支援センター長	阿部 雅則		医師	総合診療科長	上野 修一		医師	精神科長	江口 真理子		医師	小児科長、臨床遺伝医療部長、移行期医療センター長	押切 太郎		医師	消化器腫瘍外科長、低侵襲がん治療センター長	模田 祐三		医師	肝臓・胆のう・脾臓・移植外科長、臓器・組織移植
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職																																																																		
杉山 隆	○	医師	病院長、周産母子センター長																																																																		
竹中 克斗		医師	副病院長（総務・教育担当）第一内科長																																																																		
雜賀 隆史		医師	副病院長（診療担当）泌尿器科長、手術部長、高難度新規医療技術評価部長																																																																		
山口 修		医師	副病院長（経営・再開発担当）、第二内科長																																																																		
鈴木 純		医師	副病院長（医療安全・危機対策担当）、医療安全管理部長																																																																		
崎田 智美		医師	副病院長（患者サービス担当）、看護部長																																																																		
山下 政克		医師	副病院長（橋渡し研究推進担当）																																																																		
日浅 陽一		医師	第三内科長																																																																		
大八木 保政		医師	脳神経内科長																																																																		
高田 康徳		医師	糖尿病内科学・臨床検査医学科長																																																																		
永井 将弘		医師	臨床薬理神経内科長、臨床研究支援センター長																																																																		
阿部 雅則		医師	総合診療科長																																																																		
上野 修一		医師	精神科長																																																																		
江口 真理子		医師	小児科長、臨床遺伝医療部長、移行期医療センター長																																																																		
押切 太郎		医師	消化器腫瘍外科長、低侵襲がん治療センター長																																																																		
模田 祐三		医師	肝臓・胆のう・脾臓・移植外科長、臓器・組織移植																																																																		

			センター長
泉谷 裕則		医師	心臓血管・呼吸器外科長、ME機器センター長
國枝 武治		医師	脳神経外科長、てんかんセンター長
高尾 正樹		医師	整形外科長、リハビリセンター部長、人工関節センター長
藤澤 康弘		医師	皮膚科長
森 秀樹		医師	形成外科長、口唇口蓋裂・顎変形症治療センター長
白石 敦		医師	眼科長
山田 啓之		医師	耳鼻咽喉科長
城戸 輝仁		医師	病院長補佐（医療の質・働き方改善担当）、放射線科長、放射線部長
松元 隆		医師	産婦人科長
西原 佑		医師	麻酔科蘇生科長
内田 大亮		歯科医師	歯科口腔外科・矯正歯科長、材料部長
佐藤 格夫		医師	病院長補佐（災害担当）、救急科長、救急部長
山之内 純		医師	輸血部・細胞治療部長
高崎 康史		医師	集中治療部長
北澤 理子		医師	病理部長
木村 映善		医師	病院長補佐（医療DX担当）、医療情報部長
池田 宜央		医師	光学医療診療部長
菊川 忠彦		医師	透析治療部長
渡邊 英昭		医師	脳卒中センター長
西村 隆		医師	循環器病センター長
利光 久美子		管理栄養士	栄養部長
伊賀瀬 道也		医師	抗加齢・予防医療センター長
宮崎 幸大		医師	造血細胞移植センター長
田内 久道		医師	病院長補佐（感染症担当）、感染制御部長
薬師神 芳洋		医師	腫瘍センター長
藤井 知美		医師	緩和ケアセンター長
徳本 良雄		医師	肝疾患診療相談センター長
塩川 大介		医師	細胞プロセシングセンター長
川口 直人		医師	P E Tセンター長
大谷 真二		医師	呼吸器センター長
打田 俊司		医師	小児総合医療センター長
坂根 由梨		医師	屈折矯正センター長
亀井 義明		医師	乳腺センター長
岡 靖哲		医師	睡眠医療センター長
伊賀 淳一		医師	認知症疾患医療センター長
本田 弘文		医師	放射線治療品質保証室長
堀内 史枝		医師	子どものこころセンター長
飛鷹 範明		薬剤師	未承認新規医薬品等評価部長
竹下 英次		医師	炎症性腸疾患センター

日野 雅之		医師	痛みセンター長、脊椎センター長
田中 守		薬剤師	薬剤部長、臨床研究クオリティマネジメント部長
大元 謙二		診療放射 線技師	診療支援部長
熊木 天児		医師	総合臨床研修センター長
廣岡 昌史		医師	病院長補佐（地域医療担当）、総合診療サポートセ ンター長
濱田 淳平		医師	間脳・下垂体疾患センター長
今村 健志		医師	先端医療創生センター長
仙波 文彦		事務職員	医学部運営部長
羽藤 直人		医師	医学系研究科長（医学部長）
小林 大介		教員	病院長特別補佐

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（（有）・（無））
 - ・ 公表の方法
愛媛大学ホームページに掲載
 - ・ 規程の主な内容
人事権限・予算執行権限
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - 【職名】副病院長（総務・教育担当/診療担当/経営・再開発担当/医療安全
・ 危機対策担当/患者サービス担当/橋渡し研究推進担当）
 - 病院長補佐（災害担当/医療の質・働き方改善担当/医療DX担当/感染症担当/地域医療担当）
 - 病院長特別補佐
- 【役割】病院長の職務を補佐し、病院長から指示された重要な事項を処理する。
- 【職名】（副病院長のうち総務・教育担当）
- 【役割】病院長が不在又は事故があるときは、その職務を代理する。
- 【職名】（副病院長のうち医療安全・危機対策担当）
 - 【役割】医療安全管理責任者として医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
厚労省委託事業の特定機能病院管理者養成研修に4名参加している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
・監査委員会の開催状況：年 2 回	
・活動の主な内容：	
次の事項について審議する。	
(1) 病院の医療安全に係る業務執行状況の監査に関すること。	
(2) 安全管理状況及び改善状況に関すること。	
・監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有)・無)	
・委員名簿の公表の有無 (有)・無)	
・委員の選定理由の公表の有無 (有)・無)	
・監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (有)・無)	
・公表の方法：	
愛媛大学ホームページに掲載	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
中西 徳彦	愛媛県立中央病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
和田 資篤	弁護士法人SOH		法律に関する識見を有する者	有・無	1
河野 和博	愛媛県難病等患者団体連絡協議会／愛媛県腎臓病患者連絡協議会		医療を受ける者	有・無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注）「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

専門部署として学長直轄の監査室を設けるとともに、監事及び会計監査人と連携して監査を実施している。

また、監事は本院の「規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体」に該当する会議に出席しており、意見を述べることができる。

- ・ 専門部署の設置の有無（・）
- ・ 内部規程の整備の有無（・）
- ・ 内部規程の公表の有無（・）
- ・ 公表の方法
愛媛大学ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に 係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 国立大学法人法に基づき、役員会・経営協議会を設置し、病院の業務・管理運営及び経営に関する重要事項を審議・報告している。
・ 会議体の実施状況（年回） 役員会：23回 経営協議会：4回
・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（有・無）（年回） 役員会：20回 経営協議会：3回
・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（有・無）
・ 公表の方法 愛媛大学ホームページに掲載

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有 無）
- ・通報件数（年0件）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有 無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有 無）
- ・周知の方法

愛媛大学教職員向けポータルサイト内に「相談窓口」のページを設け、様々な事案毎の相談窓口及び連絡先等を掲載している。その中に、医療安全管理の適正な実施に関する情報提供を受け付ける相談窓口の設置について掲載しており、加えて、本件について事務連絡メールを全教職員に送付し周知を図っている。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
<ul style="list-style-type: none">・情報発信の方法、内容等の概要 <p>本院の目的・目標、果たすべき役割及び実績等をまとめた冊子「医学部／附属病院概要」を毎年作成・発行するとともに、電子BOOKとしてオリジナルホームページにも掲載している。</p> <p>また、DPC データによる病院指標も公表し、当院の特徴や急性期医療の現状を理解していただくよう情報発信に努めている。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
<ul style="list-style-type: none">・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 <p>中央診療施設において、複数診療科等を組み合わせたセンターによる診察を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 周産母子センター（産婦人科、小児科）2. 小児医療総合センター（小児科、心臓血管・呼吸器外科）3. 呼吸器センター（第二内科、心臓血管・呼吸器外科）4. 脊椎センター（整形外科、脳神経外科）5. 睡眠センター（第二内科、耳鼻咽喉科）6. 循環器病センター（第二内科、心臓血管・呼吸器外科）7. 緩和ケアセンター（腫瘍センター、麻酔科蘇生科）8. 認知症疾患医療センター（精神科、臨床薬理神経内科、脳神経内科）9. 子どものこころセンター（精神科、小児科）10. 炎症性腸疾患（IBD）センター（第三内科、消化器腫瘍外科）	

- 1 1. 移行期医療センター（小児科・第二内科、心臓血管・呼吸器外科）
- 1 2. てんかんセンター（小児科、精神科、脳神経内科、臨床薬理神経内科、脳神経外科）
- 1 3. 間脳・下垂体疾患医療センター（第三内科、小児科、脳神経外科、産婦人科、泌尿器科）